048325-000-7

特23-906

尋常小学校国語科教授細目

美作各郡聯合教授細目編纂会

M35

BEF-2381

凡例

一本細目は教材を前後し又は取捨折衷等をなさず教科書の順序に據りて之を編製せり

一準備には教授の資となすべきものを掲げたり

一豫定時數は一年四十週と見積り時數を配當したれは若干の時數餘ある豫定なり

一教授要項は内容形式の各部に分ちて之を記載し形式には新出文字は別に擧げす教科書頭書に之を讓り新出語句又は難解の語句若くは文字語句の比較等を擧げたり

一應用には既習の文字及び語句を用ひて讀本中の事項を記述し又綴方の一例として記載したるもの故に候文語をも第四學年より之を加へたり

一教授注意には教授上特に注意を要する事項を擇みて之を擧げたり

一既往將來の關係は國語讀本修身教本中の事項教授材料に關係の課を掲く讀

特23
906

本教材の排列は前後の關係を有し居るもの多きを以て前課后課の事項は別に之を摘記せず

一級方は讀本の應用に屬すべきものにて隨時教授すべきは勿論のことなれば其時期及分量等は豫測しがたきを以て本細目には之を省略せり

一書方教科書は讀本教科書と全く連絡なきものなるを以て習字帖の順序により單に一週間に教授し且練習すべき文字を配當し重出文字につき特に注意を加へたるのみ

尋常小學校第一學年國語科讀方教授細目

第一學期　十五週　凡百五十時間

四月

教材	豫定時數	準備	教授要項	應用	教授注意
トリ、	三時間	第一週掛圖實物標本	(一)、鳥の概念 (二)、ト、リの發音讀方書方綴方		教授の要項は一時に授くべきものにあらざれば先づ第一時に於ては鳥が概念を確め其發音を正し文字の讀方を授け第二時に於てはトの及びリの書方を授け第三時に於ては其の練習應用をなすが如くすべし
ハト、アリ、			ト、(戸)		

時數	三時間 第一週		
準備	掛圖		
要項	(一)、鳩鷦の常習身体各部の名稱鳩の仁悲、蟻の報恩、		
	(二)、ハ、ア、の發音讀方書方綴方		
用意	ハ、(葉) ハリ、(針)		
	說話によりて信義仁愛報恩等の德を養はんことを要す		
教材	ハタ、タコ、		
時數	三時間 第一週		
準備	掛圖 旗の種數		
要項	(一)、國旗に對する心得 旗紙鳶の構造形狀用途等		
	(二)、タ、コ、の發音讀方綴方		
用意	タ、(田) ハコ(箱) コト(琴) トコ(床)		
	國旗に關しては愛國の情を養ひ紙鳶に就ては遊具取扱の一得を知らしむべし		
教材	フエトタイコ、		
時數	四時間 第一週第二週		
準備	掛圖		
要項	(一)、笛太鼓の構造形狀種類用途等、樂器に關する智識、朋友間の和樂		
	(二)、フ、エ、イ、の發音讀方書方綴方 トヒコ フヒアとの比較		
用意	イト、(絲) イタ、(板) フタ、(蓋) エリ、(襟)		
教材	フチ、アミ、イカリ、		
時數	四時間 第二週		
準備	掛圖 船の模型		
要項	(一)、海につきての概念、船綱錨の構造種類用途等		
	(二)、チ、ミ、カの發音讀方書方綴方		
用意	イチ(稻) タチ(種) ミミ(耳) カミ(紙) カタ(肩) ハカリ(衡) フチトアミ、カイトイカリ、		
	海に關係ある掛圖を示し其概念を確め尚海濱の生活漁獵の有樣等をも知らしむべし		

教材　クシトカガミ、

教時數　四時間　第二週第三週

準備　掛圖　實物

要項　(一)、器具に關する智識、清潔儀容等の心得

(二)、ク、シ、ガの發音讀方書方綴方　ッとァとの比較

クリ(栗)トクリ(德利)ハシ(橋箸端)イシ(石)ハリガチ(針金)ガク(額)タコトイト、イトトハリ、

應用　濁音の教授は清音との比較により其差異を知らしむべし

注意

教材　セミ、ハナ、クモ、

教時數　四時間　第三週

準備　掛圖

要項　(一)、蟬、蜘蛛、蜂の常習形体効用等　蟬の懶惰蜂の勤勉

(二)、セ、ナ、モ、の發音讀方書方綴方

ミセ(店)セリ(芹)ナナ(父乳)モモ(桃)イセ(芋)チリトリ(塵取)ミミトクチ

應用

注意

教材　トラトキツチ

教時數　四時間　第三週

準備　掛圖

要項　(一)、虎、狐、の常習身体各部の名稱、虎の威を假る狐の概説及道德的教訓

(二)、ラ、キ、ツ、の發音讀方書方綴方　ラとァッとシとの比較

クラ(倉)ハラ(腹)キハ(雛桐霧)フキ(蕗)ツキ(月)

應用　人の威光をかりて威張るはよき事にわらざることを覺らしむべし

注意

教材　既授事項

教時數　三時間　第三週第四週

準備　掛圖　實物　標本

要項　既授の事項につきて應用練習すべし

應用

注意

教材	ミノ、タケノコ、
教時數	三時間　第四週
準備	掛圖　竹　筍
要項	(一)、簑の構造効用、筍及竹の種類効用等 (二)、ノ、ケ、ノ發音讀方書方綴方ケトクトの比較
應用	ノミ　ノシ(熨斗)　ハケ(刷毛)　ハタケ(畠)　ハケトノリ、
注意	

五月

教材	テマリ、ハチ、ハエイタ、
教時數	四時間　第四週
準備	掛圖
要項	(一)、手、毬、羽子、羽子板、の構造種類用途等、朋友の愛情 (二)、テ、マ、コ、の發音讀方書方綴方　コトマトアテトナトの比較
應用	テラ(寺)　テツ(鉄)　マツ(松)　マチ(町)　カエ(籠)　タマゴ(卵)　アヂトイモト
注意	既授の鼓太鼓と比較して男女遊具の異なる点を知らしむべし

教材	マツ、アサヒ、カラス、
教時數	四時間　第四週
準備	掛圖　松の枝
要項	(一)、日の出の景色、松の各部の名稱葉の形狀色及び材の効用、鳥の常習身体各部の名稱 (二)、サ、ヒ、ス、の發音讀方書方綴方　トセセ、サトキトの比較
應用	サラ(皿)　ヒモ(紐)　ヒト(人)　スミ(黒炭)　ハス(蓮)　スノサシ(尺)　マツトタケ、スミトカミ
注意	松の葉の常緑なること及び竹と比較して元旦等の祝日に用ゐることを知らしむ 東西の方位を教ふるを要す

教材	ヤリ、カタナ、カブト、
教時數	四時間　第五週
準備	掛圖　模型
要項	(一)、武器の智識 (二)、ヤ、ナ、ブの發音讀方書方綴方　ヤトマアセ、ナトサナ、との比較

應用	注意	教時準要	應用	注意	教時準要
ヤマ（山）ヤスリ（鑢）ハナ（花）ナス（茄子）ヒナ（雛）ナタネ（菜種）ヤブ（藪）カブラ（蕪）アブトハナ			ホタルノヒカリ　ランプノアカリ		
	今代の武器と比較して其便否を知らしめ且尚武の氣象を養ふべし				
ヤシロ、エマ、スズ		四時間　第五週第六週	六時間　第六週		
掛圖　實物（繪馬鈴）			掛圖		
(一)、神社の由來、繪馬、鈴の構造用途等					
(二)、ロ、エ、ズ、の發音讀方書方綴方　ロとコエとエとの比較					
フロシキ（風呂敷）フクロ（袋）ツクエ（机）チズミ（鼠）ミミズ（蚯蚓）ツエトカサ、					
敬神の心を養ひ神社を汚すべからざることを知らしむべし					

應用	注意	教時準要	應用	注意	教時準要
(一)、螢に關する知識、ランプの構造形狀用途等、古人の苦學			フヂ、ボタン、オモト、		
(二)、ホ、ル、ン、プの發音讀方書方綴方　ノ辭の用法　ラとル、ンとシ、との比較			五時間　第六週第七週		
ホリ（堀）エホン（繪本）ツル（鶴）サル（猴）キセル（煙管）ランプノホヤ、ツキノヒカリ			掛圖　實物		
	繪畫によりて車胤の苦學せし有樣を說話し勤勉の尊ぶべきことを覺らしむべし		(一)、藤牡丹萬年青木蓮の葉花に關する智識		
	ンの音は他の音に就きて出づるものにして頭に出づることも獨出づることもなきことを示すべし		(二)、ヂ、ボ、オ、レ、の發音讀方書方綴方　オとホ、レとル、フ、との比較		
			モミヂ（紅葉）ボン（盆）トンボ（蜻蛉）ハオリ（羽織）オリホン（折本）レンコン（蓮根）		
			ボタンノハナ　オモトノミ		

注意	盈栽花卉等の智識を與へて好美の情を養ひ幷せて色彩の觀念も明瞭にすべし
教材	既授事項
教時數	三時間　第七週
準備	掛圖　實物
注意	既授の事項につきて應用練習すべし

教材	イケニヒヨコ、キシニメンドリ、
教時數	五時間　第七週
準備	掛圖
要項	(一)、牝鷄か家鴨と知らずして孵化したる子を思ふ情の切なること 鷄家鴨の常習身体各部の名稱等 (二)、ニヨメドの發音讀方書方綴方　二辭の用法　ニとミメとノとの比較 一カニ(蟹)タニ(谷)ヨル(夜)ヨメナ(嫁菜)コメ(米)マド(窓)メンドリノアシ、 ヒヨコノアタマ、フチニホ、ハシラニトケイ
應用	

注意	說話によりて親の子を思ふ情の深きことを感知せしめ孝心を養ふべし
教材	ヒケシ、トビグチ　ハシゴ　ポンプ
教時數	四時間　第八週
準備	掛圖
要項	(一)、消防具の構造用途等　消防夫のこと (二)、ビグポの發音讀方書方綴方 ドビン(土瓶)　ヤグ(夜具)　タンポポ(蒲公英)　グンカン(軍艦)　クルマニポンプ キモノトオビ
應用	火の用心の肝要なることを論して火遊を戒め火事の時の心得及消防組の必要なることを知らしむべし

六　月

教材	ウサギガヤスム、カメガイソグ、
教時數	五時間　第八週

準備	掛圖
要項	(一)、兎龜の常習身体各部の名稱　兎の油斷龜の奮勉 (二)、ウ、ギ、ム、ソ、ノ發音讀方書方綴方　ガ辭の用法　ムスマ、ソモン、との比較
應用	ウシ(牛)　ウナギ(鰻)　ムスビ(握飯)　ソデ(袖)　ヒケシガハシル、ソラガクモル、 ウマニムチ、
注意	勉強の功と油斷の戒しむべきことゝを知らしむべし

教材	三時間　第八週第九週
數備	掛圖
時項	(一)、邸内の所見、塀溝釣瓶の構造用途、及釣瓶の種類、 (二)、ヘ、グ、サ、ベの發音、讀方書方綴方
準用	ヘイダイ(兵隊)　ヘビ(蛇)　トリヰ(鳥居)　クワイ(慈姑)　ナベ(鍋)　カベ(壁)
要意	井水を釣り上ぐる時の心得　溝を埋め塀を汚す等のことなき樣にすべきことを諭すべし
應注	

教材	四時間　第九週
數備	掛圖
時項	(一)、繪畫書物算盤に關する智識　學問を勵み仕事を務むること (二)、チ、パ、ジ、の發音讀方書方綴方　ヂ辭の用法　チトヂトの比較
準用	チケ(桶)　ツバメ(燕)　キジ(雉子)　チコチョブ、　ジチカク、
要意	三人の小供が各勉強せる樣を示し何事にても怠る可らざることを知らしむべし
應注	

教材	掛圖　實物
數備	(一)、喇叭眼鏡鉛筆ペンの構造用途等　眼鏡の種類
時項	(二)、パピプの發音讀方書方綴方
準用	カツパ(合羽)　ピストル(短銃)　パンペイ(番兵)　ラツパチフク、　ハツピナキル、
要意	ラツパトメガチ、　エンピツトペン、
應注	ピストルノタマ、

注意	促音ッをあらはす文字は少しく右に偏して小形に書することを知らしむべし
教材	サケチトル、エダニサス、カツイデユク、
教時數	四時間　第十週
準備	掛圖
要項	(一)、熊鮭の常習身体各部の名稱及効用熊が鮭を捕り笹竹に指し肩にして持ち歸る樣及鮭は次第に脫け落つること (二)、ダデユの發音讀方書方綴方　デ辭の用法　ユとコエとの比較
應用	ダイク、(大工)　フデ(筆)　ユスラ、　サカナチトル、　イソイデユク、　ソラニトブ
注意	說話によりて注意綿密等の習慣の必要なることを諭すべし
教材	イヌガハシチワタル、カゲガミヅニウツル、
教時數	四時間　第十週
準備	掛圖
要項	(一)、犬の常習性質形狀　橋の構造用〇種數　犬が肉を口に含みて橋上に立ち居ること

注意	已が影の水に映りしを他の犬と思ひしこと
教材	(二)、ヌワゲヅノ發音讀方書方綴方　ヌとスワとウとの比較 タヌキ(狸)　ミヅイレ(水入)　クギヌキ(釘抜)　ワン(椀)　ゲタ(下駄)　サルガキニ
教時數	ノボル、　ヒトガイヌチヨブ、
準備	說話中の事實により智識の必要なること及前課と關聯して思慮の淺はかなるは失敗を來すべきことを覺らしむべし
要項	カゼニクルクルカザグルマ　ミヅニクルクルミヅグルマ
應用	四時間　第十週第十一週
注意	掛圖
教材	(一)、風車水車の形狀構造用途、風車水車のめぐる理由
教時數	(二)、ゼザの發音讀方書方綴方
準備	ゼン(膳)　ゼニ(錢)　カンザシ、　ザシキ(座敷)　ウマガクルマチヒク、　コドモガカザ
要項	グルマチモツ
應用	既授の事項
教材	

時數	四時間　第十一週
準備	掛圖　實物
注意	既授の事項につきて應用練習すべし
教材	片假名五十音　濁音　半濁音
時數	五時間　第十一週第十二週
準備	五十音圖　濁音半濁音圖
要項	(一)、五十音濁音半濁音の排列の順序及行と列とのこと (二)、五十音濁音半濁音の發音讀方書方の練習
注意	發音の練習に注意し且つ行列の區別假字の位置を明瞭ならしめ兒童をして反復練習暗書するを得るに至らしむべし

七　月

教材	さく、さり
時數	三時間　第十二週
準備	掛圖　標本

要項	(一)、菊桐の各部の名稱　葉花の形狀及色　桐の材の効用 (二)、さ、く、りの讀方書方綴方　片假名との比較以下仝し
應用	くり(栗)　さり(錐)
注意	桐葉菊花の帝室の御紋章に關係せることを論し尊王忠君の志氣を養生すへし
將來ノ關係	國語讀本卷の二第九(太郎ト次郎)
教材	さんとさとくま
準備	掛圖　標本
時數	三時間　第十二週
要項	(一)、金時の幼時立身功業の概略　金時の友は熊鹿兎猴等なること今熊と角力をなし居ること
應用	(二)、ん、と、ま、の讀方書方綴方　まとさとの比較 まく(幕)　とり(鳥)　さん(金)
注意	父母教師の教訓を守り惡戲を避け快活なる遊をなして身体を大切にすること及勇氣活潑の精神を養はんことを要す

既往ノ關係　第二十四課

教材	時數	準備	要項	應用	注意
しきとはまぐり	三時間	第十二週	掛圖		
			(一)、蚌と鷸との爭　蚌鷸の常習形狀及各部の名稱等		
			(二)、しきはぐの讀方書方綴方		
			はと(鳩)　くき(釘)　はし(橋箸)　さくとさう		
					說話に依りて無益の爭の不利なることを覺らしむべし
まつり、みこし、とりゐ、					
三時間	第十三週		掛圖		
			(一)、神輿鳥居の構造種類等、祭典に關する心得		
			(二)、つ、み、こ、ゐ、の讀方書方綴方　みとゐとの比較		

教材	時數	準備	要項	應用	注意
つき(月)　ぐみ(茱萸)　はこ(箱)　しきる(敷居)					
					神の祭典に際しては特に注意して不敬のことなきことを知らしめて兼て祖先の祭も忘らさる樣論し置くべし
うし、しか、ひづし					
三時間	第十三週		掛圖　標本		
			(一)、牛鹿羊の常習形狀身体各部の名稱及効用等		
			(二)、うかひじの讀方書方綴方		
うり(瓜)　かみ(紙髮)　ひつ(櫃)　にじ(虹)　くまとしか、うしとひつじ					
なんてん　ひよどり					
三時間	第十四週		掛圖　標本		
			(一)、南天各部の名稱効用　鵯の常習形狀身体各部の名稱		

應用	教材	應用
(二)、な、て、よ、こ、の讀方書方綴方・てとこよとまとの比較 なし(梨) てまり(手毬) こよみ(暦) かど(角) ひよどりとなんてん		
	時數	三時間 第十四週
	準備	掛圖 笹の枝及標本
	要項	(一)、笹の形狀効用 蝸牛の常習身体各部の名稱 (二)、さのたむの讀方書方綴方 さとさのとつたとなとの比較
ささのは かたつむり さかな(肴) たつくり(田作) ねのしし(猪) むぎ(麥) なんてんのみ、 かたつむりのつの	材料	
かきのたねとにきりめし	教授	
三時間 第十五週	時數	
掛圖 標本	準備	
(一)、猿と蟹との常習形狀身体各部の名稱 猿が大口にて握飯を食ふ樣 蟹は柿の種を蒔きつゝある狀	要項	

應用	注意
(二)、ねにめの讀方書方綴方 にとたとめとのとの比較 ねこ(猫) きね(杵) たに(谷) まつ(豆) とりのはね、 なんてんときく、	
說話に依り猿の弱者を威迫するの惡意なること蟹の慾むへきこと等を論し善を好み惡を惡むの情及義によりて勇むの念を養ふ可し	

第二學期　十五週　凡九十時間

九　月

教材　既授事項
教時數　三時間　第一週
教準備　掛圖　實物
注意　既授の事項につきて應用練習すへし

教材　きせんぐんかん、ほばしらにはた、
教時數　三時間　第一週
教準備　掛圖　標本
要項　(一)、汽船軍艦の構造用途等
(二)、せほばらの讀方書方綴方　ほとはとの比較
せきばん(石盤)　ぐんじん(軍人)　ほり(堀)　かばん(鞄)　さら(皿)　からかさ(傘)
應用　さるにかに、つきにほし、

教材　うなぎ、なまづ、ふな、あゆ、
教時數　三時間　第二週
教準備　掛圖　摸造品
要項　(一)、川魚に關する智識　魚類の身体各部の名稱形狀等
(二)、づ、ふ、わ、ゆ、の讀方書方綴方　つとめとの比較
應用　づきん(頭巾)　ふね(船)　あめ(雨)　ゆかた(浴衣)　ふとん(蒲團)　ふみにふね、
あたまのかみ、
注意　魚の概念を正確にし理科的興味を喚起すべし

教材　もんにいぬ、かごにことり、
教時數　三時間　第二週
教準備　掛圖　標本
要項　(一)、門及鳥籠の構造効用　犬の性質常習効用小鳥の常習等

注意　汽船軍艦の効用を説き海事思想を養ひ併せて海國防備の必要を知らしむべし

應用	(二)、も、い、ぬ、ごの讀方書方綴方　ぬとめとの比較
	もめん(木綿)　いた(板)　ぬか(糠)　きぬいと(絹糸)　ごま(胡麻)　しごと(仕事)
注意	門戶出入及開閉に關する心得及犬の恩を記すること籠に小鳥を飼ふなどの不德なること
	と等につき修身的の注意を加ふべし
教材	みけとさる、かにがはさむ、みけがさわぐ、
時數	三時間　第三週
準備	掛圖　標本
要項	(一)、猫の常習身体各部の名稱等　猫の構造効用等　猫の驚ける體の怒れる樣
	(二)、け、さ、るがわの讀方書方綴方　けとはるとろわとねとの比較
應用	つけき(附木)　さいもく(材木)　さる(猿)　がん(雁)　いわし(鰯)　ねことかに　と
	りかなく
注意	說話ニ依リ日常ノ出來事ニツキ過チ再ビセサルコトヲ諭スベシ
既往ノ關係	第卅六課かきのたねとにきりめし

教材	くちは一つめは二つくちは一つてては二つ
時數	四時間　第三週第四週
準備	掛圖
要項	(一)、口目手に關する智識　養生の大切なること
	(二)、ち、一、二、の讀方書方綴方　はは辭の用法
應用	はち(蜂)　いたち(鼬)　みみこつ、はな一つみけはよいねこ、ひとはじをよむ
注意	不具者を憫み旦多言を愼み仕事を勵むべきことを諭すべし
	ちとさ一と二との比較
教材	はなさかぢかれゐだにはなをさかせる
時數	三時間　第四週
準備	掛圖
要項	(一)、花咲爺の概說及倫理的敎訓
	(二)、お、れ、ゐ、だ、をの讀方書方綴方

應用　ひぢ(肱)　ひれ(鰭)　ゐのき(榎)　だるま(達摩)　をとこ(男)　うを(魚)　さを(竿)

注意　きのゐだにとり、ぢちははなをさかせる　れとわトノ比較
善惡正邪の別因果應報の理を知らしめ兒童の德操を養ふべし

十月

教材　かぜがふくなるこがなるすずめがをつとたつ

時數　四時間　第四週第五週

準備　掛圖

要項　(一)、秋の稻田の景色　農事に關する智識　鳴子の構造効用　雀の常習身体各部の名稱
(二)、ぜすずをの讀方書方綴方

應用　あぜ(畔)　からす(鴉)　すずり(硯)　をん(麪包)　ばつた(蜈蚣)　いねがうごく　なるこのつな　すずめはことり

注意　益鳥害虫等の概略を授くべし

教材　既授の事項

時數　三時間　第五週

準備　掛圖　實物

注意　既授の事項につき應用練習すへし

教材　一ぼんのやなき一ぴきのかはづいくどもとびつく

時數　三時間　第五週第六週

準備　掛圖　柳の枝　標本

要項　(一)、柳の各部名稱　葉及枝の形狀　蛙の形体及常習　小野道風の故事
(二)、ぼやぴびの讀方書方綴方

應用　みや(宮)　はつぴ(法被)　びんつけ(鬢附)　一ぼんのまつ　一ぴきのふな　いくどもはねる

注意　說話により忍耐勤勉の德を養ふべし

教材　へいたいがうまにのつてくる　ばんぺいがもんのそはにゐる

時數　三時間　第六週

準備　掛圖

要項	應用	注意
(一)、騎兵番兵等に關する智識		
(二)、へぺその讀方書方綴方　そとてとの比較		
へちま(糸瓜)　ぺんさき・かみそり(刺刀)　いぬがもんのこばにねる		
尚武の氣象を養ひ兼て軍人に對する心得を知らしむべし		

教材	時數	準備	要項	應用
めじろのおしくら一つ二つ三つ四つ五つ六つみなで六つ	五時間	第六週第七週		
		掛圖　標本		
		(一)、眼白の常習形体等　群を好み一枝に集り推し合ふこと		
		(二)、ろお三四五六での讀方書方綴方　ろとつ二と三との比較		
さくろ(柘榴)　どろ(泥)　おりもの(織物)　おやこ(親子)　こどものかけくら　わた				
くしのとしは六つ				
おそぶときにはよくおそべはげむときにはよくはげめ	三時間	第七週第八週		

教材	時數	準備	要項	應用
一二三四五六七八九十十ぴきのさるがゐぼしをかぶつた	四時間	第八週		
		掛圖　標本		
		(一)、烏帽子寶と猿との概説　猿の常習形狀身体各部の名稱		
		(二)、七八九十ゐぼノ讀方書方綴方		
つくゑ(机)　ゑのぐ(繪具)　ぼたん(牡丹)　たばこぼん(煙草盆)　(十ぴきのとんぼ)				
さるのひとまね　さるがかさをかぶつた				

十一月

教材	既授事項
教時數	四時間　第八週第九週
準備	掛圖
注意	既授の事項につきて應用練習せしむべし
教材	平假名　數字
教時數	五時間　第九週第十週
準備	掛圖　いろは圖　數字圖
要項	(一)、いろは反數字の排列順序 (二)、讀方書方の練習
注意	反覆練習暗書するに至らしめて應用自在ならしむべし
教材	富士の山（國語讀本卷二第一）

教時數	二時間　第十週
準備	掛圖　白扇　摺鉢
要項	內容 (一)、富士山は日本第一の名山たること (二)、山容は扇を倒にし摺鉢をふせたる形に似たること (三)、頂上には常に雪の絶へさることと 形式　おほき　これ　につぽん一、あります かほ（顏）　とほやま（遠山）　とほる（通ル）　おほきなやまてあります　につぽん一の おほきなやま
注意	(一)、掛圖をよく觀察せしめ兒童に雄大崇高の觀念を與へ自然の美を愛するの情を養ひ且山の容姿正しく美はしきは世界に類なきことを知らしむべし (二)、轉呼音を授くるには尤注意を要す
教材	鷲（全卷二第二）
教時數	二時間　第十週

準備要項

掛圖　標本

內容

(一)、鷲の常習身体各部の名稱

(二)、鷲は鳥類中力强く形大なること

形式

ウヘ　サマス　ワシ

イヘ(家)　一ヘザクラ(一重櫻)

オヤヘサンドチラヘオイデデスカ

オホキナイハノウヘニイヘカタツテサマス

應用注意

教授の際への轉呼音につき注意すべし

教材

いけにひごひ　(仝卷二第三)

時數

二時間　第十一週

準備要項

掛圖

內容

應用注意

(一)、池に鯉が躍り猫が鯉をねらひ居る有樣

(二)、男女の小供が鯉に麩を與へ居ること

形式

ひごひ　くふ　あれ　ねらつて　ゐる　マスとマセウとの比較

たらひ(盥)　かよひ(通帳)　ゆふがほ(夕顔)　へびがかへるをねらふ　うしがくさを

くふてゐる

(一)、本課を授くるに當りては微細なる注意を忽にせさる心掛を養を要す

(二)、ひふの轉呼音を授くるに注意すべし

教材

てのなるほしへ　(仝卷二第四)

時數

二時間　十一週

準備要項

內容

(一)、女兒が群り鬼遊をなし居ること

(二)、女兒の遊ひの柔和なること

形式　おに　それ　きました

應用　たいほー（大砲）　ほーび（褒美）　おにがきたらほーぼへにげた、めくらおにをしてあそびませう

注意　（一）、朋友親睦ノ情ヲ養フベシ
（二）、ホーセウノ發音綴方ニ注意スベシ

教材　おもちやの馬車　（全巻二第五）

教時數　三時間　十一、十二週

準備　掛圖

要項　內容　（一）、馬車に關する智識
（二）、小供が行義よく玩具の馬車を見居ること
（三）、モ辭の用法

形式

應用　オモチヤバシヤ、キヤクギヨシヤ、ゴラン、サイ、ツイテ、サマス、ナリマセウトオナリナサイトの比較
きんちやく（巾着）　きしや（汽車）　キヤハン（脚絆）　きんぎよ（金魚）　ジンリキシヤニヒトガノツテサマス、イケニキンギヨガオヨイデヰル、オキヤクニナヤチダス

教材　にんきよー　（全巻二第六）

教時數　二時間　十二週

準備　掛圖　人形

要項　內容　（一）、人形に關する智識
（二）、女兒がおとなしく人形を見居ること

形式　にんぎよー　ごーじよー　おとなしい　なかぬ　おはらーい
ぎよーき（行儀）　ごーれい（號令）　このこはごーじよーでない　これはかはゆらしい
にんぎよーでせう

應用

十二月

注意	温順愛すべきの徳を養ふことに注意すべし
教材	タローノアソビ（尋卷二第七）
時數	三時間 十三週
準備	掛圖
要項	內容 (一)、太郎次郎朋友と兵隊遊を始めしこと (二)、太郎次郎は喇叭を吹き其他の兒童は隊長となり兵士となりて進み行くこと 形式 タロー タイショー すゝめ オイデナサイ、レンペイ マヂ ガクタイ オナリナサイ アリマスとゴザイマスとの比較 ショーギ（將棊） ローソク（蠟燭） ちゝは、（父母） タローサンハタイチヨーニオナリナサイ リナサイ ガクタイノマヂチイタシマセウ 規律の練習勇氣の訓練等をなすことに注意すべし
應用	
注意	

將來	
教材	テンチヨーセツ（尋卷二第八）
時數	四時間 十三週
準備	掛圖
要項	內容 (一)、戶戶國旗を立て祝すること (二)、天長節を祝する理由 形式 テンチヨーセツ ゴサイマス オイハヒ ウタヒ 唱歌 チヨーメン（帳面） ショバイ（商賣） テアリマス ケフハヨイテンキデゴザイマス キクノハナニナヨーガトマツテサマス 天長節の由來を示し忠君愛國の情を發揮せしむるを要す
應用	
注意	
既往	
將來	

教材	タロートジローノ遊（全巻二第九）
時數	四時間 十三、十四週
準備	掛圖
要項	内容
	(一)、菊ノ花ノ事
	(二)、軍人ノ勳章服裝ノ事
	形式
	イロ〳〵ホントー ヨーテ カザリ コシラヘ ダイリン クンショー カタシル
	シツモリ
	サマスヒナリマスヒノ比較
	ソロ〳〵ジョートー ニナヨー テンシサマノゴモンハキクノハナデアリマス
	キクニンギョーチコシラヘル キクノハナデクンショーナシマセウ
應用	(一)、想像カ審美の悟工夫考案の心を養ふことに注意すべし
	(二)、勳章は國家に功ある者の、天皇陛下より賜はることと兒童成長後國に盡して勳章を載くべきことなどを論して忠勇の氣を養ふことを要す
注意	

教材	ところーたろーの家庭の遊（全巻二第十一）
時數	三時間 十四週
準備	掛圖
要項	内容
	(一)、家庭の遊戲
	(二)、物と陰影との理及び鳥さし等の智識
	形式
	あんな こしらへ とりさし やわうつつた をかしい
	ますとましたとの比較
應用	(一)、あのよーなてをしたらあのよーなとりがうつつた
既往將來	(二)、さぶろーさんがをかしい〳〵とわらつてゐる なかのよいきよーだい
教材	五しよーのはし（全巻二第十一）

時數	三時間 十五週		
準備	掛圖 武器日の丸の扇		
要項	內容	應用	注意
	(一)、五條の橋の上で牛若と辨慶と出合ひ戰ふ樣		
	(二)、牛若が辨慶を苦めたること		
	形式		
	五じよーのはし うしわか べんけい たゝかつて わふぎ にがいかは どらんな さい どちら		
	(一)、べんけいがにがいかはをする		
	(二)、べんけいがなぎなたできりつける		
	(三)、うしわかいなげたわふぎがべんけいのわたまにあたつた		
	前課と連絡せしめ圖書により鳥さしの影書と比較し數似の点を發見せしめ想像工夫等の力を養ふべし		
	小さきもの必すしも敗るゝにあらさる理由を示し勇氣を養ふべし		

第三學期 十週 凡六十時間

一月

教材	牛乳配りのこども (全卷二第十二)		
時數	四時間 第一週		
準備	掛圖		
要項	內容	應用	注意
	(一)、父母と共に朝早く起さる小供の可憐なること		
	(二)、父母の手傳をなし牛乳の配達をなすこと		
	形式		
	チヒサイコ ゴトシ、アニサン オトウト クライウチ、一ショ シボッタ ホーく シボリトシボッタトマセウトマセヌトノ比較		
	ウシノチヽノコトチギユーニユトイヒマス コノウシノコハ、アノウシノコノアリマセウ コノコニハキヤーダイハアリマセヌ		
	說話により子供の勤勉なることに同情せしめ父母の仕事の手傳をなすべ		

きことを論すべし

教材	りくぐんのぐんじん（全巻二第十三）
時數	五時間　一、二週
準備	掛圖
要項	内容
	(一)、軍人に關する智識
	(二)、禮式に關すること
	形式
應用	れい　ながら　りくぐんのぐんじん　ぼーし　かつこー
	につぽんのぐんじんはみなつよい　ぐんじんにはりくぐんとかいぐんとがあります
	ぐんじんがうまにのつてきました
注意	假字をのみ授けられたる兒童ゆゑ一字一音と云ふこと先入となり居りて漢字をも皆一字一音の如く考ふるもの多ければ此点に注意して教授すべし

教材	源頼朝のこと（全巻二第十四）
準備	掛圖
時數	四時間　二、三週
要項	内容
	(一)、源頼朝が石橋山にて敗れ木の洞に隠れ居ること
	(二)、敵兵の尋ね來りたること
	形式
應用	きのうろ　りつぱ　かふと　いくさ　さかし　てき
	人と大木と木との比較
注意	(一)、ねこが大きなきのうろにかくれました
	(二)、大きな木のそばにいくさにんがゐる
	(三)、この人はよりともといふたいしよーでございます
教材	說話により歷史的觀念を與へ常識を練習することを要す
	カクレンボ（全巻二第十五）

時數　四時間　三週
準備　掛圖
要項　內容
(一)、男女の小供がかくれんぼをなし居ること
(二)、男の子は木の傍に立ち女の子は物置に隠れ居ること
形式
カクレンボ　オヤ　ドコダラウ　モノオキ　ビラ〳〵
チトコノコガ木ノ下ニタツテヲリマス　オカウサンノカンザシノビラ〳〵ガカゼニフ
カレテヰマス　モノオキノ中ノヲケガミエマス　カクレンボヲシテアソビマセウ

應用

二月

教材　ミチシルベ　（仝卷二第十六）
時數　四時間　三、四週
準備　掛圖
要項　內容

(一)、二人の小兒がみちしるべを見て居ること
(二)、道しるべは通行人に便利を與ふること
形式
ミチシルベ、　ホツテアル、　ワカリマス、　トホル、　マヨヒ
石と右、　右と左との比較
サヽレ石　右ノメ　左ノテ　ミチシルベニホツテアルジヲヨンデミマセウ、　アノヤマデラニユクニハ右デアリマス、
道しるべの便利なることを知らしめてこれを毀損せざる樣注意することを要す

應用
注意
教材　かぜに木のは、（練習文）仝卷一第十七
時數　四時間　四、五週
準備　掛圖
要項　內容
(一)、落葉の風にまふ有樣
(二)、自然木の葉の種々なる形狀

應用

形式

にはか、とひまはつて　たくさん　をもしろい

大きなきりのは、ちいさいもみじのは木のはがかぜにふかれてかけくらをするかけくらはおもしろい〳〵

注意

木の葉の舞ひ落る樣の千趣万態なることを十分の同情を以て狀說し兒意をして多趣興味を感せしむることを要す

教材

一月一日（仝卷二第十八）

時數

四時間　五週

準備

掛圖

要項

內容

(一)、日の出の景色の美はしこと

(二)、一月一日の樂しくめでたきこと

形式

コヽロモチトリハケ一月一日　ハツ日ノデ　ムカシ　メデタイ　イセイハツメウタヒ

應用

フタリノコドモガハツ日ノデヲヲガンデヰマス　十一月ミツカハテンチヨーセツ

二月十一日ハキゲンセツ　フジノ山　ムカウニタカイ山ガミエマス　山ノ上　山ノ下

下ト上ノ比較　ハツ日トアサ日トノ比較

注意

一月一日の樂しきこと皆々無事に一ッ歲を取りたること家內睦しく朋友仲よくたのしむこと皆これ聖代の恩澤に浴する幸福を覺らしむるを要す

教材

年の始の歌（仝卷二第十九）

時數

三時間　五、六週

準備

掛圖　骨牌ノ類

要項

內容

(一)、戶々國旗を立て五七三飾等なすこと

(二)、小供等相集り羽子つき骨牌遊なと面白き有樣

形式

めでたやな　どこ　しめなは　つく　かるた　たのし　唱歌

應用

わたくしのとしは八つ（七つ）になりました　けふは一月一日てめでたい日であります

注意		教材	ユキ（全巻二第二十）
		教時數	四時間 六週
		準備	掛圖
		要項	內容
			(一)、二人の男子が雪中にありて雪達摩を作ること
			(二)、二人の女兒ハ雪にて兎を摸造し居ること
應用			形式
			ミテサル ツモッテ ユキダルマ
			太と大 ミテとミエテとの比較
			ニハシコーニユキガツモリマシタ
			太ローガイキデ手チアタタメテサマス ユキガツモッテ木ニハナガサイタヨーニミエマス
			快活の性を暢發し天然の美を愛する情と工夫想像の力と養ふことを要す 太ローガイキデ手チアタタメテサマス ユキタルマノ目ハタドンデゴザイマス
注意			

教材	練習文（全巻二第二十一）
教時數	四時間 七週
準備	掛圖
要項	內容
	謎の解き方
	形式
	ひくい こぞんじ ですか ふノ轉呼音
	口ハ一ッニ目ハ二ッ 口ハ一ッニ手ハ二ッ 口ハ一ッニミ、二ッ
應用	たるまは目や口は大きいがせいはひくい ゆきだるまには手も足もない うさぎのみゝはなかい
	好奇心を利用して想像力を練習すへし
注意	
教材	三月
教時數	かせよふけ〳〵の歌（全巻二第二十二）
	三時間 八週

準備　掛圖　凧

要項　内容

(一)、兒童が面白く凧を揚げて樂み居ること
(二)、其凧が高く空中に揚りたること

形式

ふけよ、あがれ、ふわ〳〵つつとつて　までも
太大と天との比較
天はたかい　ひばりが天までわかる　天にいろ〳〵のほしがみゆる

應用

敎材　兄弟ノ小供（全卷二第二十三）
時數　四時間　八週
準備　掛圖
要項　内容

(一)、鶯の常習形狀大小等
(二)、兄弟對話の有樣

應用

(三)、鶯が梅の枝に來りて囀り居ること

形式

つい、うめのえだ　おりて　およしなさい　びつくり　せつかく　ものを
うめのえだにうぐひすがとまつてゐるうめのはなを見にゆきませう　うぐひす
はよいこゑのとりであります　うぐひすはほーほけきよとなく
忠恕の念及び和順友愛の情を養ふべし

注意

既往將來

敎材　おばあの話（全卷二第二十四）
時數　五時間　八、九週
準備　掛圖
要項　内容

(一)、老婆が川へ洗濯に往き桃を拾ひ歸りしこと
(二)、桃の中から男の子が生れ其名を桃太郎と名けしこと

（三、桃太郎か成長するに從ひて力強かりしこと
（四、鬼退治を思ひ立ちしことと爺婆が
（五、吉備團子をこしらへて與へしこと

形　式

ぢぃ　ばぁ　あるとき　せんたく　よろこんで　桃の中　そだて　たんぐ　力もつ
よく　おにたいぢ　きびだんご
桃太郎のむかしばなし　桃のみ　桃太郎は桃の中からでた子であります　ぢぃは山へ
しばかりにゆきました　力のある子ども　ばぁは川から桃をひろつてかへりました

應　用

挑太郎の童話によりて日常の智識を與へ種々の道徳的訓練をなすを要す

教材　前のつゞき（全卷二第二十五）
時數　八時間　九十週
準備　掛圖
要項　內容
（一）挑太郎は吉備團子を腰につけて出立せしこと

（二）途中より猿犬雉を供に連れて鬼が島へ渡りしこと
（三）鬼退治をなし寶物を取りて歸りし武勇の働

形　式

入れて　いさましく　でかけます　どちらへ　おにがしま　一つください　ともにつれ
くはへ　それから　おし入り　たふし　かなはず　こーさん　たからもの　めでたく

入と人　犬と大太との比較
門は出入りの口　おにたいぢ大しよーは挑太郎です
このはたには日本一とかひてあるぞ
さるもきたいぬもきたきじもきた
おには挑太郎をおそれてこーさんしました
よはいやつめこーさんしたらこらへてやる

應　用

尋常小學校第二學年國語科讀方教授細目

第壹學期　十五週　七拾五時間

四　月

教材	春のの（國語讀本卷三第一課）
豫定時數	三時間　第一週
準備	菫、蒲公英、蓮華草等ノ實物
教授要項	內容
	(一)、春の野の景色の美はしさこと
	(二)、野外散歩の樂しさこと
	形式
	春ののゝはたゝか　一めん　おをく　れんげそー　すみれ　たんぽゝ　うたつて
	たのしそう　まつて　つみ草　かけくら
	(一)、春はあたゝかなときであります
	(二)、これから一しよにつみ草にまゐりませう
應用	

教授注意　兒童を引率して實地の有樣を觀察せしめ自然の美を愛する情を養ふべし

將來關係　國語讀本卷四第二十四課

教材　うんどーくわい（第二課）

豫定時數　四時間　第一週第二週

教授要項　內容

(一)、運動會の興味あること

(二)、馬乘競爭と綱引競爭とのこと

(三)、身躰の强壯及び勇氣の必要なること

形式

うんどーくわい、きよーそー　たふれ

くわいとかいとの比較

(一)、このえはがつこーのうんどーくわいであります

(二)、太郎さんがまけましたのは馬がたふれたからであります

(一)、說話問答によりて勇壯活潑の氣象と公共心とを養ひ且競爭の際卑劣の行あるべか

らざる事などを戒むべし

已往關係　國語讀本卷一第四十九課

教材　ウマヤノ馬（第三課）

豫定時數　四時間　第二週第三週

教授要項　內容

馬の形狀習癖效用等に關する智識

形式

ウマヤ　ツヨサウ　タガヤス　イタシマス　トチユー　サリ〳〵

ヨウとヨー、白と日　車と中草　田と日車との比較

(一)、私ノウチニハアカイ馬ガヰリマス

(二)、馬ハ力ガツヨウテヨク田ヲタガヤシタリ人ヲノセタリシマス

(一)、馬の事實につきて從順勤勉等の德を養ひ尙ほ他出したる時は早く歸るべきこと及家畜を愛飼すべきことをも訓ふべし

應用

教授注意

既往關係　國語讀本卷二第十三課

教材　のきのつばめ（第四課）
豫定時數　三時間　第三週
準備　燕の標本若くは繪畫
教授要項　内容　燕の常習
形式　のきのつばめ　さくわん　きつと一は
土と上　又と人との比較
應用　(一)、つばめは春きておきになるとかへります
(二)、あのつばめはらいねんも又きつとまゐりませう
(三)、あそこで土をこねてをる人はさくわんであります
教授注意　燕に關する智識を確むると共に勤勉の德親子の愛故郷を忘れざる情なぞを助長すべし
教材　かひこ（第五課）
豫定時數　四時間　第三週第四週
準備　蠶の放大圖繭生糸桑葉等の實物

教授要項　内容　蠶に關する實用の智識及猫の效用等
形式　かひこ　大きく　まゆ　ゆふべ
ゆふとの比較
應用　(一)、かひこはくわのはをたべて大きくなりまゆを作ります
(二)、このねこはゆうべ大きなねづみをとつたさうであります
教授注意　(一)、養蠶の利益の大なることを知らしめ實業を貴ぶ念を喚起すべし

五月

教材　ねづみのそーだん（第六課）
豫定時數　四時間　第四週第五週
準備　鼠の標本
教授要項　内容　(一)、鼠の小田原評議
(二)、空論の價値なきこと

（三）鼠の形態常習等

應用	
形式	子ねづみ　けもの　ねて　ふい　われ〳〵　ふせぐ　くふー　つごー　それ　ゆる　むだ
教授注意	（一）、ねづみはよほどわるいことをするけものであります （二）、猫のくびにすゞをつけておいたらばねづみはよろこぶでありませう 鼠疫は時としてペストの病毒を有することあるを以て其取扱方につき注意を與ふべし
教材	イサマシイ兵士（第七課）
豫定時數	五時間　第五週第六週
教授要項	内容 （一）、日清戰爭の概略 （二）、我軍大同江を渡るに困みしこと （三）、勇敢なる兵士敵舟を奪ひ來りしこと
形式	イサマシイ兵士　ワガクニ　シナイクサ　ナヨーセン　テキ　マモッテ　一ショケンメイ

應用	水と木　土と土　人と人との比較
教授注意	（一）、一人ノ兵士ハ水ノ中ニトビコンデテキノ舟ヲトッテカヘリマシタ （二）、コトシノナツカラハ水ヲオヨグコトノケイコヲイタシマセウ （三）、兵タイノウサコハキ兵ホー兵ホ兵コー兵ナドアリマス 前課と比較して事は實行の貴ぶべし又勇氣の必要なることを知らしめ同時に我邦の兵士の勇敢にして忠君愛國の心の堅かりしことと及水泳術の効等を感得せしむべし
已往關係	國語讀本卷二第十三課
教材	あめ〳〵小さめ（第八課）
豫定時數	三時間　第六週
準備	水を入れたる器
教授要項	内容 雨水に關する理學的智識 形式　小さめ　居た　うみ　天び 居と石右との比較

應用	(一)、水はよつぱどたいせつなものであります (二)、天からふつてくる雨はそのまへはいけや川やうみに居たのであります
教授注意	初歩の理學的思想を養ふと共に自然の妙を感知せしむべし
教材	門のまへの小川（第九課）
豫定時數	三時間　第七週
教授要項	內容 川と川魚とに關する智識
應用	形式　小川　をとゝひ　水かさ　四つ手あみ　たなご　はゐ (一)、この小川はあのむかうの山からながれてきます (二)、太郎はいま四つ手あみをふせて魚をとつてをります
教材	手がみ（第十課）
豫定時數	四時間　第七週第八週
準備	封筒人の書狀

教授要項	內容 (一)、樂しき家庭及び交際のこと (二)、手紙の智識と平易なる口上文
應用	形式　おつかひ　手がみ　たぶん　ごへんじ　きのふ　おうつり　ごとく　さし上ます　すこしながら　一上げト上　下されト下との比較 (一)、おばさまのおつかいか竹の子と手がみとをもつてきました (二)、きのふうしろの山でとりましたわらびをすこしさしあげます
教授注意	使の口上作法手紙の取扱ひ方なぞをも知らしむべし

六　月

教材	ホタルガリ（第十一課）
豫定時數	四時間　第八週第九週
準備	螢の放大圖
教授要項	內容、

(一)、螢狩のこと
(二)、螢ニ關スル理科的智識

應用
教授注意
既往關係
將來關係

形式　ホタルガリ　オツテ行ク　モラツタ
兄と只　居たと居りとの比較
土手ノ上ニ立ツテ見テ居ルノハ三郎デアリマス
(二)、ムカシホタルノヒカリデホンヲヨンダ人ガアリマス
國語讀本卷一第十五課

教材　田うゑ（第十二課）
豫定時數　四時間　第九週
教授要項　內容
(一)、米作につきて農業の智識
(二)、農家辛苦の有樣

應用
教授注意
將來關係

形式　さいちゆー　じせつ　男たち　すかせ　みのる　なへ
女ト母トノ比較
(一)、男も女もおやも子もみな田うゑをして居ります
(二)、田うゑの時にわたくしはなへをかついで行きませう
農家苦辛の有樣に同情を表せしめ實業に對する興味を養ふべし
國語讀本卷四第十一課

教材　五コク（第十三課）
豫定時數　四時間　第十週
準備　稻麥豆黍粟等の實物若くは標本
教授要項　內容
五穀の用途及び農業上の智識

應用

形式　五コク　アハ　コクモツ　ショーユ
(一)、五コクトハ米麥アハキビ豆ノ五ツナイフノデアリマス
(二)、ハタケニ作ルコクモツハ麥アハ豆ナドデアリマス

教授注意　穀物を作る辛勞より之を食料となすまでの手數の大なることも知らしめ食物の粗末にすべからざることを戒むべし

教材　わきなひごと（第十四課）
豫定時數　四時間　第十、十一週
教授要項　内容
(一)、商業に關する智識
(二)、商ひするには正直なるべきこと
形式　わきなひ　ひろつて　くだもの　いくら　ひと山　しよーぢき
應用　(一)、三郎は今梅のみを買ひにまゐりました
(二)、お花はしよーぢきでありますからよけいなせには五厘でも取りませぬ
(三)、けふかへりましたらわきなひごとしてあそびませう
教授注意　(一)、農業と同しく實業を愛する精神を惹起さしむへし
(二)、たゞに金錢のみならず品物につきても正直の肝要なることを訓ふべし

教材　カザミ（第十五課）
豫定時數　四時間　第十一週、第十二週
準備　掛圖　磁石
教授要項　内容
(一)、風見の構造效用
(二)、東西南北の方位
形式　カザミ　向ッテ
云ヒ天六　西ヒ四　北ヒ此ヒの比較
應用　(一)、カゼガ南カラフケバカザミハ北ニムキマス
(二)、日ハマイ日東オラ出テ西ニ入リマス
教授注意　磁石の效用ヒ見方及日の出入のことゝ共に月の出入のことをも教ふべし

教材　にじ（第十六課）
豫定時數　四時間　第十二週、第十三週
準備　掛圖　七色板三稜玻璃色紙牌等

教授要項	内容
	(一)、虹の現はるゝ理
	(二)、色の智識
	(三)、太陽の七色よりなれること
應用	形式　にじ　夕方　あらはれ　たいよー　向ひあつて　だんだら　かば色　みどり　あね
教授注意	夕と夕の比較
	(一)、にじはいつでもたいよーと向ひあつてあらはれるきまりであります
	(二)、あさがほのはなみどりで花には赤むらさきあるなど色々あります
	(一)、自然に對する觀察力を養ひかねて其の美を稱嘆せしむべし

七月

教材	まはりどーろー（第十七課）
豫定時數	三時間　第十三週
準備	廻り燈籠の摸型

教授要項	内容
	(一)、廻り燈籠の構造
	(二)、其燈籠の廻る理由
應用	形式　まはりどーろー　ろんさき　ゆーびんはいたつ　おつかけて
	(一)、にはに水をまいたら大そーすゞしくなりました
	(二)、ゆーびんはいたつもじんりきしやも一しよにはしつてきました

教材	ヒライタ〳〵（第十八課）
豫定時數	三時間　第十三週第十四週
準備	蓮の花
教授要項	内容
	(一)、朋友仲よくして遊戯せること
	(二)、開いたの〳〵歌
應用	形式　つぼんだ
	開と門との比較

應用　(一)、オ松サンモオ竹サンモナカヨクシテアソンデヰマス
(二)、ハスノ花ノコヲトレンゲトモイヒマス

己往關係　國語讀本卷二第四課

教材　はす（第十九課）

豫定時數　四時間　第十四週第十五週

準備　蓮の葉及實と莖

教授要項　內容
(一)、蓮の糸の取りがたきこと
(二)、中將姫蓮の絲を取りて織物を作りしこと
形式　ちゆーじよーひめ　おかた　おりもの　人ぎよー　寸と時との比較

應用　(一)、このむすめははすの糸で人ぎよーのおびおげをこしらへよーとおもつてゐます
(二)、私もはすの糸をとつて見ませうか

教授注意　中將姫の事實につきて温順優美孝行忍耐の諸德を愛せしめ且機具の名稱尺の見樣等を知らしめ手藝の思想を得せしむべし

第二學期　十五週　七拾五時間

九月

教材　きもの（第二十課）

豫定時數　四時間　第一週

教授要項　內容　衣服の効用種類等
形式　つれて　ほどよき　きこー　ひとへ　かつを　はなはだ　べんり
鳥と馬　羽と物との比較

應用　(一)、羽ねは鳥のき物で毛はけものゝき物である
(二)、ひとへ又はかたびらはあつい時のき物である
(三)、このき物にはあかゞついたからあらうてください

教授注意　容儀及衞生に關する注意を與ふべし

教材　あほーがらす（第二十一課）

豫定時數　四時間　第一週、第二週

準備　孔雀の彩色畫

教授要項　内容　鳥孔雀の裝をなして失敗せしこと

形式　くじやく　よーす　あんなり　うらやましく　ひろつて　にせもの　しわざ

(一)、鳥はくろい鳥でくじやくはうつくしい鳥であります

(二)、おほくの鳥はおほーがらすのしわざをにくんでのちにはあいてにしませなんだ

應用　外部の虚飾を戒め巳の分に安んずべきことを諭すべし

教授注意

教材　虫のうた（第二十二課）

豫定時數　四時間　第二週、第三週

準備　虫類の放大圖

教授要項　内容

(一)、秋夜虫聲の清きこと

(二)、虫に關する理科的智識

形式　こよひ　松虫　すゐ虫　くつわ虫　きりぐーす　そば　もろともに　リン〳〵〳〵

應用

(一)、おほくの虫がチヽロヤチヽロリン〳〵〳〵とうたつてゐます

(二)、秋の夜の月はきれいにあります

教授注意　(一)、秋の夜の趣味を感知せしむべし

教材　ミツバチ（第二十三課）

豫定時數　五時間　第三週、第四週

準備　蜜蜂の標本放大圖及蜂の巢の標本

教授要項　内容　蜜蜂の常習及その形態效用等

形式　フルツタリ　スツテ　アソコ　フシユー　休と作伺と比較及び人扁といふこと

(一)、ミツバチガ花ノ上ニトマツテミツヲスツテヰマス

(二)、ハチミツハサトーニニタアマイモノデアリマス

(三)、ミツバチハセイダシテオキマスカラフユニナツテモタベ物ニフジユーハアリマセン

應用　教授注意　動儉の德を養ひ貯蓄の必要なることを知らしめ併せて天然物を愛する念を起さしむべし

巳往關係　國語讀本卷三第五課

十　月

教材　二宮金次郎（第二十四課）
豫定時間　七時間　第四、五週
準備　肖象畫
教授要項　内容
金次郎の孝行勤倹苦學公益をなしゝこと
形式　せおつて　ねつしん　のーふ　こーこーもの　買ひかねる　行つて　買つて
なんじゆうなくらし　よのために
金と今錢　文と文人　早と草　讀と買先と兄　多と夕との比較
(一)、たきゞをせおつてあるきながら書物をよんでゐるのは金次郎さんであります
(二)、ねつしんにべんきようすればできぬことはありません
(三)、もも太郎のおぢいさんはまい日山へしばかりに行きました
人は順境の時と雖も二宮金次郎の心を以て心とすべきことを教訓すべし
國語讀本卷一第四十五課全卷二第十二課

教材　家（卷四第一課）
豫定時數　四時間　第五、六週
準備　各種建物の圖
教授要項　内容
(一)、動物の棲所人家の組立方
(二)、家屋の必要及び住居と衞生との關係
形式　シノグ　レングワ　クミタテル　フセガレヌ　ユカ
戸と石住と作休との比較
(一)、家ガナケレバ雨風ヲシノグコトガデキマセヌ
(二)、ワカクニノ家ハ大ティ木デクミタテマス
清潔整頓及び家族に關係ある諸德を養ふべし

教材　村ト町（第二課）
豫定時數　四時間　第六、七週
準備　町と村との繪畫

教授要項
内容
(一)、村と町との別
(二)、農夫漁夫商人職人等の職業及び其關係等
形式 村 町 ウミベ ノーフ ヤサイ クラシキタテル リヨーシ カヒルイ
商人 ショク人 ウツハ
畑と田 商と向南 との比較
應用
(一)、村ニハ多クノーフカ住ンデ居リマス
(二)、町ハ人ノ家ガ多クテニギヤカナトコロデアリマス
(三)、タイヤブリヤハマグリナドハウミベリノリヨーシノトツタノデアリマス
教授注意
(一)、國民的智識を與へかねて愛鄉心を養ひ愛國の情を發揮すべし
教材
海はどのよーなもの (第三課)
豫定時數
四時間 第七週第八週
教授要項
内容 海につき太郎の質問父の説明
形式 さよーさ しかし

應用
百と白 千とテとの比較
教授注意
(一)、海は水がどこまでも〳〵ついてそれは〳〵ひろいところでありますそーな
(二)、海の水は川や池の水とちがいしほからうわります
(一)、兒童に海を見たしとの慾望を起さしめんことを要すなは質問の必要なる事及長上にものを問ふ時の言葉遣と作法とを知らしむべし

十一月

教材
海ノケシキ 第四課
豫定時數
四時間 第八週
準備
海の景色畫船の模型貝殼等
教授要項
内容
(一)、太郎始めて海を見しこと
(二)、海の廣大なること海岸の景色の美なること
形式 ハテモナク サカイメ オキ ホカケブネ イソベ
貝と目見 走と足との比較

應用　(一)、オキヲ走ルホカケブチハ白ィ鳥カト見エマス
(二)、太郎ハハヨメテ海ヲ見テヨロコンデ居ル
(三)、私モ海ヲ見ニ行キタウエサイマス

教授注意　一、海に關する智識を與ふると共に海上生活の愉快なることを感せしむべし

已往關係　國語讀本卷一第三十八課

教材　さゝえのじまん　第五課

豫定時數　四時間　第九週

準備　榮螺の貝殼

教授注意　內容　さゝえが自慢して却て漁夫の爲に捕へられしこと
形式　さゝえ　かれひ　わわてたかつこー　思つたが　すさまじいやがて　そつと
魚店　さる　しよーふだ
付と何作と皆と習　音と昔　との比較

應用　(一)、このえはさゝえがしまん話をして居るところであります
(二)、魚店のさるに入れられたさゝえには八厘のしよーふだがついてをります

教授注意　(三)、海のそこにはわらめこんぶわかめなどの海草がある
說話によりて謙遜の德を養ふと共に海中の動植物に關ずる理科的智識を與ふべし

教材　一の谷のしろぜめ　（第六課）

豫定時數　四時間　第九週第十週

教授要項　內容
(一)、平家一の谷に據りしこと
(二)、義經鵯越を越えて平軍を破りしこと
形式　源氏　平家　一の谷の城　よーい　よしつね　ひよどりごえ　けはしい
そなへ　ゆーよなく
火と父　谷と名との比較

應用　(一)、よしつねはふんべつのよい大しよーでありましたから平家を一の谷でまかしました
(二)、平家がいくさにまけたのはゆだんをして居りましたからでありました
智謀勇氣の必要なることと及び油斷は事を破る原因なることを知らしむべし

教授注意　國語讀本卷一第十九課全卷二第十一課

已往關係

教材　春夏秋冬（第七課）

豫定時數　五時間　第十、十一週

教授要項

内容

(一)、日月年及び四季の別

(二)、四季それ〳〵に樂みあること

形式　ヨリ　イタル　ナリ　分ツ　ニシテ　云フ　アツクシテ　オヒシゲル　スヾシキ　時ニテ　ヨロヅ　ヨブ　タガフ

應用

分と今　毎と海　云ふとヨブとの比較

(一)、秋ハスヾシイ時ディロ〳〵ノムシガヨイコエヲチダシテナキマス

(二)、一年ヲ春夏秋冬ノ四ツニ分ケマシテ月ノカズガ十二アリマス

(三)、イチハ春タテチヾキ夏ナヘチウエテ秋ミノルモノデアリマス

教授注意

我國は四季の順序正しく氣候の程よきことを知らしむべし

教材　くだもののうた（第八課）

豫定時數　四時間　第十一週第十二週

準備　掛圖　實物模型

教授要項

内容　四季折々の果物につき實用の智識

形式　まづ　はつ夏　すもゝ　りんご　さくらんぼ　いちじゆく　ざくろ　くるみ　ぎんなん　くねんぼ　ねん〳〵　みち〳〵　ゆたか

應用

梅と海　村と材松梅と比較及木扁と云ふこと

(一)、栗は秋うれるくだものでそのがはにはとげのよーないがついてをります

(二)、このなしはことしはじめてなりましたゆゑすこしなれどさし上ます

教授注意

反覆練習して諳唱するに至らしめ果物に關する智識を確めなは果樹栽培の要なと說くもよし

十二月

教材　たけがりの話上（第九課）

豫定時數　三時間　第十二週

教授要項

内容

(一)、或兒童たけがりを樂みて待ちしこと

(二)、其日雨降りため行くを得すして剛情を張りしこと

形式　よくば　かんなめさい　あやにく　せひ

應用　妹と、味との比較

教授注意　(一)、雨がふりましたからたけがりにゆかれませんでした
(二)、たけの中で味のよいのは松たけしいたけなどであります
この兒童の行ひの善惡を批評せしめ尚且結果の如何等をも想像せしめおくべし

教材　たけがりの話下（第十課）

豫定時數　三時間　第十三週

教授要項　內容
(一)、從順なる妹が葦狩に連れ行かれしこと
(二)、剛情なる兄は家に殘されしこと
形式　こらしめ　こーくわいさきにたゝず

應用　(一)、次の日よー日にはうしろの山へたけがりにまねりませう
(二)、私はきのふ向うの山で松たけを二本と白しめじを六本とひきました
從順の德の貴ぶべきことを感得せしめ且後悔先きに立たずとの意義をよく了解せしむ

教授注意

べし

教材　取り入れ（第十一課）

豫定時數　三時間　第十三週第十四週

準備　稻

教授注意　內容　米を精製するまでの順序及び手數等
形式　取り入れ　稻こき　もみふるひ　すり臼　とーみ　さり　さて　千でく
そばし　かしげば
臼と白　末と米　稻と秋私と比較及ノギ扁と云ふこと

應用　(一)、一つぶの米でもめしとなるまでにはよほどの手まがかゝりますおろそかにしては
なりません
(二)、あすから私方の稻かりをします故てつだひをして下さい

教授注意　取入れに要する農具の智識をも與ふべく又稼穡の辛苦を想像せしめて一粒の米をも粗末にすべからざることを覺らしむべし

既往關係　國語讀本卷三第十二課

教材	桝（第十二課）
豫定時數	三時間 第十四週
準備	一合桝 五合桝 一升桝
教授要項	內容 桝の構造種類用途及び其使用法幷に計算法 形式 一斗桝 一升桝 一合桝 十度 カサ 十ハイ 二合と谷 升ト斗油と海池と比較及び散水と云ふこと (一)、桝ハ木デコシラヘタ四カクナモノデ米麥酒ショーユナドヲハカルウツハデアリマス (二)、五合桝デ二度ハカツタカサト一合桝デ十度ハカツタカサト同ジコトデアリマス 實驗によりて幷目の觀念を與ふへし
教材	こしそれ雀のうた(一)（第十三課）
豫定時數	四時間 第十四週第十五週
準備	瓢箪
教授要項	內容 心やさしき老婆が雀をいたわりて幸を得しこと 形式 山さと 住めり こしそれ雀 われがり いたわり いゆる はなちけり

應用	いとも とび去りぬ かまびすし ひさごの種のみ あまた みてり あふれ 家とみぬ 去と云 窓と家 其と具昔 待と得行と比較及び行人扁といふこと (一)、こしそれ雀はたすけられたればいにおんがへしをしました (二)、心のやさしいものは後によいことがくるものであります (三)、このあひだはたすけてつかあさつてありがたうございますこのたねをおれいにあ げます
教授注意	慈悲報恩等の德を養成すべし
已往關係	國語讀本卷一第二課

第三學期　十週　五十時間

一月

教材	こしをれ雀のうた（二）（第十四課）
豫定時數	四時間　第一週
教授要項	内容　慾深き老婆雀を苦めて後不幸に陷りしこと 形式　こはいかに　たゞ入りぬ
應用	(一)、なさけ心のないよくのふかいものはよいめにはあはれませぬ (二)、雀は朝早くおきてちゆー〳〵となくかわゆらしい小鳥であります
教授注意	前課と對照し善に善報惡に惡報あるものなることを感せしめ無慈悲貪慾物羨み等を戒むべし
已往關係	國語讀本卷一第二十五課
教材	アリトセミ（第十五課）
豫定時數	四時間　第一週第二週

教授要項	内容 (一)、夏の間遊び暮せし蟬冬に至り衣食住の道を失ひ蟻に助けを求めて謝絶せられしこと
應用	(二)、蟬蟬の常習 形式　ウエツカレタル　メグンデ下サレ　言ヒケレバ　ナケレド　問フ　スツテ　ムダ　言ヒタリ 有と右　來と末米　者と有間と聞問門との比較及び門がまひと云ふこと (一)、アリハ夏ノアツヒ日ニモ休マズハタライテオキマスカラ冬ニナツテモコマルコトハアリマセヌ (二)、セミガ冬ニナツテウエヂニシタノハ夏ノ間アソビクラシテ居タカラデアリマス (三)、たいそーさむうなりましたかおさはりはございませんか
教授注意	動勉貯蓄の肝要なることを感得せしむべし
教材	勉強がしら（第十六課）
豫定時數	五時間　第二週第三週

準備　時計

教授要項　内容

（一）、能く勉むるもの、問答

（二）、時計は寸時の間斷もなく働くものなること

形式　うちひゆー　勉強がしら　おつしやいました

柱と住　計と讀話と比較及び言扁

應用

（一）、今水をくんで居るのは五助でそのそばに居るのはよく番をする黒で向うのゑんに居るのはみけであります

（二）、時計は夜ひるなしによくはたらいて人に時を知らせます

（三）、私はふじで勉強して居りますからわんしんして下さい

教授注意

勤勉正直の徳を養ひ又時計に關する智識を與へ時間の貴重すべく寸陰も徒に過すべからざることを知らしむべし

教材

二　月

ひろの梅とにはの梅（第十七課）

豫定時數　四時間　第三週第四週

準備　梅の枝

教授要項　内容

（一）、暖室の梅庭の梅を喩りしこと

（二）、庭の梅人の力を借りて時ならす花を咲かすことの不可なることを論じゝこと

形式　むろざき　人さま　一りん　さて〳〵　いくぢ　あざける　時ならぬ　かじけて

應用

（一）、ゆきやしものさむさもかもはずまだ冬の中からさきでるのは梅の花であります

（二）、たゞ今はうつくしい梅の花を下されありがたうございます

教授注意

獨立自治の肝要なることを知らしむべし

教材

はです虎をころす（第十八課）

豫定時數　四時間　第四週第五週

準備　掛圖　日韓ノ地圖

教授要項　内容

應用	(一)、はです朝鮮に使して其子虎に食はれしこと (二)、はです虎を殺して敵を取りしこと 形式　はです　ちよーせん　ご用　ふとらしい　さては　したつて　しまつた 宿と家窓との比較及びゥ冠といふこと
教授注意	(一)、はですは子を虎に食はれましたけれどもすぐにかたきうちをしました (二)、虎はねこににて居るげんきなけものでありますこのけもののはわがくにには居りませぬ 親の子を思ふ情の切なるを覺ちしめ以て孝道に導く端となすべし
已往關係	國語讀本卷一第八課
將來關係	
教材	炭（第十九課）
豫定時數	三時間　第五週
準備	炭の實物
教授要項	内容　炭の燒方及び原料

應用	形式　カシ　クヌギ　先ヅ　カマド　イクヘ　カクテ　ジコク　イロリ 程と種との比較 (一)、カシ栗クヌギナドハ炭ニヤクノニヨイ木デアリマス (二)、一ぴよー二十五錢くらゐの炭を五ひよー程おくつて下さい
教材	しほはら多助（第二十課）
豫定時數	四時間　第五週第六週
教授要項	内容 (一)、增原多助の勤儉及び廢物利用のこと (二)、多助立身出世のこと
應用	形式　心だて　炭問屋　つかへ　つねく　つくろひ　かねて　たまへ　かんじ入り かつて　こひて　たくはへ　をよび　そこばく　あたひ　元手 古と右　元と毛先　主と生屋と居との比較 (一)、しほばら多助は心だてのよい人ですこしのものでもそまつにしませんでした (二)、炭問屋の主人は多助の心がけのよいのをかんしんして居ります

教授注意	(三)、炭五俵車にておくります一俵二十四錢であります 廢れなるものにてもよく注意すれば利用の道あることを知らしむべし
教材	岩戸びらき（第二十一課）
豫定時數	五時間　第六週第七週
準備	天照大神の御肖像畫、岩戸びらきの繪畫
教授要項	内容 (一)、天照大神の御靈德 (二)、天照大神素戔鳴ノ尊の無禮を怒り岩戸に隱れ給ひしこと (三)、諸神忠誠を盡して大神を岩戸より迎ひ出でしこと 形式　岩戸びらき　神代　天照大神　ねらせられ　すさのをのみこと　おいかり 天の岩戸　せかいじゅー　ひよーぎ　なりもの　大力
應用	(一)、あまてらす大神さまはわがくにのごせんぞであります (二)、すさのをのみことさまは日の神のお心におそむきなされた故遠いくにへおひやら 申と中少と小との比較

教授注意	れなされました (三)、おほくの神たちが大そーになされましたのは日の神さまのごさげん をなほさうためてあります 天祖の御德業の深宏なることを知らしめ忠君愛國の情を養ふべし
教材	三　月 日ノメグミ（第二十二課）
豫定時數	四時間　第七、八週
教授要項	内容 (一)、日光の作用の靈妙なること (二)、日光の恩澤の洪大無邊なること 形式　如クナルベシ　ナクバ　ソダツ 光と元兄先　地と池　氷と水との比較 (一)、ノヤ山ノ草木デモアチ〳〵トシテイキテ居ルノハ日ノ光ノメグミデアリマス (二)、ヒルノアカルイノハ日ガ出テサナイカラデアル　夜ノクライノハ日ガ出テサナイカラデアル
應用	

教授注意	(一)、日光の惠によりて動植物の生育する理を卑近の例にてよく了解せしむべし
已往關係	
將來關係	
教材	ひな祭（第二十三課）
豫定時數	四時間　第八週第九週
準備	掛圖
教授要項	内容　雛祭ノ有樣及ビ雛人形ノ名稱等
	形式　つたはれる　祭日　白酒　だいりびな　ならびたる　くわん女　五人ばやし
	いしよー　かみ形　ことなる
應用	名と石多との比較
	(一)、わすはひなまつりでありまから何もありませんけれどもおいでください
	(二)、三月三日はひな祭りをする日でありましてもゝのせつくと申します
教授注意	行儀作法を教へ又古代の風俗をも知らしむべし

教材	春（練習文）（第二十四課）
豫定時數	五時間　第九週第十週
教授要項	内容　春日の樂しきこと
	形式　こゝろもしゆ　やわらかな風　しよ〳〵ほゝ〳〵
應用	(一)、こんとの日よーには向うの山にさくらを見においでなさらんかもはやぼつ〳〵さきかけましたさうであります
	(二)、春は風もあたゝかでありますしの山にはたくさんの花がさきますし一年の中で一番おもしろい時であります
教授注意	想像力を練修し春に親むの情を養ふべし
已往關係	國語讀本卷三第一課

尋常小學校第二學年國語科教授細目

第一學期　十五週凡七十五時間

四月　三週半

教材	我國の氣候　國語讀本卷五第一課
豫定時數	五時間　第一週
準備	地圖
教授要項	內容 (一)、我國の氣候は温和で至極暮しよき事 (二)、かゝる國に生れし我々は幸福なる事 形式　一雪處、國ニ生レタ、我國ノ氣候、サマタケル程、農作、オシナラシテ、カヨーナヨイ國、ソレソレノ幸福 國と同との比較 (一)、我國ノ氣候ハアツサモ寒サモハゲシクナクテ四季トモニクラシヨーイザイマス (二)、セカイノ中ニテ我國ホド氣候ノヨイトコロハアリマセヌカヨーナ國ニ生レタソレ
應用	

ワレハマコトニ幸福デアリマス

教材	鳥（尋第二課）
時數	五時間　第一週第二週
準備	鳥の標本
要項	内容
	(一)、羽ありて飛ぶものゝ中最多く人目に觸るゝものは鳥なる事
	(二)、鳥の形狀鳴聲等に關する智識
	形式　一最も多く、目にふるゝ、さくよー、近く住み、
	聲と色　美と春　他と作の比較
應用	(一)、うぐひすは小さき鳥で春梅の枝に來りておいらしき聲をいだしてなく
	(二)、わしは山林の中に住む大なる鳥でみそさゝいは人家に近く住むちさき鳥であります
注意	空中に翔り地上を走る鳥又は水を渉り水に浮ぶ鳥等多くの鳥につき其性質常習に關する智識を與ふることを要す

教材	お千代と大きなおに。（尋第三課）
時數	四時間　第二、三週
準備	掛圖
要項	内容
	(一)、お千代が野に出でゝ面白く花をつみ歌を歌つて居るとおにが來て連れ歸りろーの中に入れし事
	(二)、小鳥を捕りて籠に入れて樂みとなすものは鬼と同しき事
應用	(一)、お千代はおにゝつかまれてこわいから大きな聲をあげてとゝ樣母樣來て下さいとよびました
	(二)、けふひるごお千代さんとつみ草くさにゆこーと思ひますがあなたはいかゞですか
注意	小鳥を籠に入れて飼ふはよきことにあらざることを論し仁愛の情を養ふべし
教材	母ごゝろ（尋第四課）
時數	四時間　第三週

準備 掛圖

要項 內容

(一)、母親が門口に立ちて太郎次郎の歸りのおそきを案じ居る事

(二)、父母の恩

形式 はだ寒し、ひもじからう、出つ入りつ、心もとな、身にしむ、吹と次との比較

應用

(一)、次郎太郎は母おやのおかへりおそきにまちかねて門口出でつまた入りつ心もとなくいくたびも風吹く夜さは身も寒し(讀マシムルノミニトドム)

(二)、母親は門口に出で太郎次郎のかへるをまつてゐますと太郎は次郎の手をひきてかへりてきました

注意 (一)、親の恩の高大なるを諭し孝心を養ふを要す

(二)、父母に孝

將來 國語讀本卷六第十課 松山鏡を參照

教材 草木の生長 (全第五課)

時數 四時開 第四週

準備 桃の實の標本又は實物圖畫

要項 內容

(一)、草木の芽を出し生長するは鳥の卵が親鳥に暖められて雛となり鳥となると全し理なること

(二)、草木の生長の順序

(三)、根は土中にひろがりて幹枝葉を養ふこと

形式 ウルホヒ 生長スル 實ノ一部 見アゲル程 八方カラ 大テイ ジユンジヨスヒ取ツテ

應用 部と郎 養と春 葉と草との比較

(一)、草ヤ木ハ卵ガ親鳥ニアタヽメラレテヒナトナリ鳥トナルヨーニ雨ヤツユニウルホヒ日ノ光ニテラサレテ生長シマス

(二)、アノ小サナ桃ノ木モ五年十年ノノチニハ次第ニ生長シテヨキ花ガサキ實ガデキルヨーニナリマス

既往 國語讀本卷四第二十二課

將來　全卷六第七課

五　月　四週

教材　茶と桑（全第六課）
教時數　四時間　第四週第五週
準備　茶と桑の標本若くは實物
要項　內容
一茶桑の用途及新芽の出づる時季
一茶の製法及養蠶の事
一皇后陛下畏くも御手づから蠶を飼はせ給ふ事
形式　葉より　茶を製し　かひこを養ふ　もみながら　似たる　ささみて　たたふる
おそれ多く　御手づから　皇后へいか　かはせたまふ
應用　(一)、茶はつばきと同じ種類の木で花は白く葉は春新めをつみとりて茶を製す
(二)、桑は蠶を養ふに大切なるもので種類多く花はいちごに似てゐます
(三)、新茶をこしらへましたからすこしさし上ます

注意　茶生糸ともに貿易品の大切なるものなればこれら産業の必要なることを論し殖産の思想を養ふへし

教材　皇后陛下の御歌（全第七課）
教時數　四時間　第五週
要項　內容
(一)、學問の大切なること
(二)、皇后陛下の御製の御心を休すべきこと
形式　こんごーせき　玉の光　まこと　あらるれ　たへ間　日かげ　はげみ　成ら
さらん　ちきゆーせつ　御たんしよー日
我と成　間と開との比較
應用　(一)、時計のはりのたゆ間なく勉強して學へばいかなるわざでも成ります
(二)、皇后陛下の御たんしよー日はなんといひますかまたなん月なん日ですか
修身教本卷四第二課

將來

教材	野川のけしき（全第八課）
時數	四時間　第六週
準備	掛圖　繪畫の類

要項

內容

(一)、雨後の景色の氣持よきこと
(二)、遠山草木稻田の美しきこと

形式　山々　ゑのよー　稻田のなへ　美しい　人か居る　聞ゑぬ　たゑす　いそかし

應用

(一)、雨か夜のうちにはれてすこしのくもゝ見ゑませぬわしのかげに白さぎが居ます
(二)、この村の人はいまはひまですが水車はいそがしそうにまはりています

注意

前課と關聯して水車と時計の針のたゑまなくめぐるが如く光陰を惜みて勉學すべきことを諭すべし

教材	日本帝國の圖（全第九課）
時數	六時間　第六週第七週
準備	日本地圖

要項

內容

(一)、我國の位置及五大島の名と位置
(二)、屬島の著名なるもの、名
(三)、臺灣は近き頃我國の領地となりしこと

形式　帝國ノ地圖　ハラヨリ見ヲロサバ　カクノ如ク　大ナル島　下手　近キ頃
　　我國ノ領地　イッテ見ヨ

應用

卽ち郎　島と鳥　圖と國との比較

(一)、我國ノ五ツノ大ナル島ハ本州九州四國臺灣エゾニシテ其臺灣ハ近キ頃我カ國ノ領地トナリシ島ナリ

注意

(二)、おとぎばなしを二三日の間おかし下さい
海國に必要なる智識を與へ愛國の思想を養ひ防備必用なることを知らしむべし

將來

國語讀本卷八第九課ニ世界萬國アリ

教材	郵便箱の歌（全第十課）
時數	六時間　第七週第八週

準備	掛圖及郵便切手はがきの類
要項	内容
	(一)、郵便の便利なること
	(二)、郵便物の種類及規則の大要
	(三)、郵便物を出す心得
	形式　四つかど　あらし　あけたて　差入口　おひ封　ひらき封　おーふくはがき
	さま〳〵や　どーし　なつかし　みやげ
應用	御と卽　郎と都郵　差と養の比較
注意	(一)、郵便物の種類には封書はがきおよび封ひらき封なとがあります
	(二)、せん日はお手製のお茶たくさん下されありがたくそんじます
將來	郵便物を出すには先方の宿所宛名等を明瞭に認め日方相應の切手を貼用すること及び切手を汚さゝる樣總ての注意を敎へ置くを要す
	國語讀本第十五課

六　月　四週

敎材	船と車（全第十一課）
時數	五時間　第八週第九週
準備	船と車の摸型
要項	内容
	(一)、船、車の構造種類用途等
	(二)、人の往來荷物の運輸を便利ならしむること
	(三)、滊車ならば東京大阪の間も僅に十五時間にて達し得ること
	形式　モチハコビ　ジテンシヤ　滊船　帆前船　滊車　行ケバ　ナカリシ　ツヒヤシキ
	自と目　共と其　里と重　達と遠との比較
應用	(一)、車ニハ人力車馬車滊車大八車ナドガアリテ人ノユキ、荷物ノモチハコビニ便利デアリマス
	(二)、ジョーキノ力ニテ走ル船ヲ滊船トイヒ車ヲ滊車トイヒマス
既往	國語讀本卷一カゼグマミツケルマアリ
敎材	東京市（全第十二課）

時數	七時間　第九週第十週	應用	注意
準備	掛圖		
要項	內容		
(一)、	東京は我國の首府なること		
(二)、	東京の廣袤人口建物及繁華の有樣		
(三)、	昔は江戸といひしこと及び明治初年に皇居をこゝに移され東京と改めしこと		
(四)、	宮城は市の中央にありて其周圍に諸官衙國會議事堂諸學校等散在せること		
(五)、	市中で最も繁華なる處は日本橋通銀座通なること及び電氣燈瓦斯燈等の設ある事		
形式	三里四方　人口　皇居　わらため　市のまん中　國會議事堂　はんくわ　てん		
	しん　てんわの針金　てんきとー　かすとー　父と共に　安心　御しらせ　江戸		
(一)、	東京は我國の首府でおよそ三里四方もあります		
(二)、	日本橋通り銀座通りは市中で最もはんくわの處で上野淺草芝九段などの公園であります		
(一)、	自己の鄉土と比較して東京の有樣を想像せしむべし		
(二)、	自學校所在地より帝都までの里程を知らしむへし		

將來	國語讀本卷五第十六課第十八課	教材	都の一日　（全第十三課）	應用
教時數	五時間　第十週第十一週			
準備	掛圖			
要項	內容			
(一)、	町々の夜明の有樣			
(二)、	晝間市中の脈はひ			
(三)、	夜に入りて後の有樣			
形式	かねの聲　東の方　やう〳〵白む　ひつそり　あちこち　行きかふ　すゞの音す　明くるなり　學校へ急ぐ　ねんとつの煙　しけくなる　ほとんど　ゆきゝの男女　數を知らす　はせちがふ　家の內外　しづまり　さひしくてらす			
	社と仕との比較			
(一)、	午前八時までには子どもらは學校へ急いて行く			
(二)、	朝日ののぼる頃より次第に町々がにぎやかになります			

(三)、わたくしが東京へつきましたら其地のもよーをおしらせませう

教材　太郎と電話　（全第十四課）
時數　五時間　第十一週第十二週
準備　電話機の模型
要項　内容
(一)、太郎の叔父電話機にて談話すること
(二)、太郎之を聞きて怪みしこと
(三)、叔父太郎に電話機の説明をなすこと
形式　しきりに　しばらく　もんぢー　地方　電話　ゐんぼー　電話柱つたつて
つながつて　しせんと　電氣の力　ちよーぼー
電と雪との比較
(一)、太郎のをぢは今電話ではなしをして居ます
(二)、電話はゐんぼーの人と話をするのにつごーのよいきかいであります

七　月

教材　電話及電信　（全第十五課）
時數　五時間　第十二週第十三週
準備　電信の模型及賴信紙
要項　内容
(一)、電話は未た全國に往き渡り居らざること
(二)、電信の便利なること及發信の手續き
形式　甚ダ　ナレドモ　大都會　マウケラレ　イマダ　全國　ワヅカ　得ル　電信機
アツカフ局　ホトンド　イヅコ　スベテ　思ハト　イタリテ　手ツトキ　數分間
全と金と思ハヽ思ヘバとの比較
(一)、百里千里ノ遠キ處マデモ數分間ニタヨリチスルコトノデキルノハ電信機デアリマス
(二)、けふ電信局にお出でなさつたらでんぼー賴信紙を二三いもらつてきて下ださい
國語讀本第十課ニ郵便函ノ歌アリ

教材　京都　（全第十六課）

時數	四時間　第十三週
準備	掛圖
要項	內容
	(一)、東京より京都に至るに要する時間及び路程
	(二)、京都は昔帝都たりし地にして名所古蹟の多きこと
	(三)、京都は工業殊に織物の産出多きこと
	形式　餘　みちのり　餘年　北部、なほ　佛寺　大方　工業　にしちん織　ゆーせん染
	清水燒甚ダ
應用	甚と最凡と九と幾と錢との比較
注意	(一)、京都は昔皇居のありた地でありますから市の内外に名高い處がたくさんあります
	(二)、にしぢんをりゆーせん染などは京都でできる名高い産物であります
既往	(一)、挿畫に御所とあるは皇居のことなるを知らしむべし
將來	(二)、學校所在地より京都までの里程をも知らしむべし
	國語讀本卷五第十二課
	仝第十八課

教材	織物の歌　（仝第十七課）
時數	四時間　第十三週第十四週
準備	織物標本
要項	內容
	織物の種類功用
	形式　たちぬひ　毛織絹物　あさ木綿　絲織地　つむぎ　めいせん　しゆす　どんす
	かいき　びろーど　羽二重　しゆちん　ちりめん　あや　にしき　かなきん　小倉織
	ちゞみ　うんさい　ふたこ地　實用　かたびら地　らしや　フランネル　セル　スコ
	ッチ　身のほど〳〵　太平　大御代のかけぞかし
	絹と綿との比較
應用	(一)、毛織絹物嵐なと織物の種類はいろ〳〵あれとも最も實用の品は木綿であります
注意	(二)、このあいだおみせ下さいましたふたこ織地は一たんのあたい何程でありましたか
	おしらせ下さい
	衣服は質素實用を以て主とすべき旨を教ふべし

教材	大阪（全第十八課）
時數	四時間　第十四週第十五週
準備	掛圖
要項	內容 (一)、大阪は我國第二の大都會なること (二)、大阪城のこと商業の昌なること 形式　なには　豐臣秀吉　土地　築く　兵ゐい　內海　そうてゐる　交通　運送　諸國 半と末との比較
應用	(一)、大坂は我國第二の大都會にて商業のさかんなことは全國第一であります (二)、大阪の城は今から三百年程まへ豐臣秀吉といふ人の築ひたのでおつていまは兵ゐ いとなつてゐます
注意	(一)、前例により我鄉土より大阪までの里程をも知らしむべし
既往	國語讀本卷五第十二課第十六課
將來	

第二學期　十五週

九月

教材	豐臣秀吉（全第十九課）
時數	六時間　第一週
準備	掛圖
要項	內容 (一)、織田信長全國の半を平定せしこと (二)、秀吉信長に用ひられて一方の將となりしこと (三)、秀吉信長の仇を報ひ遂に全國を平定して重職を授けられしこと (四)、秀吉朝鮮征伐の半に薨せしこと 形式　みたれ　城主　織田信長　名稱　平ラケ　家臣　智勇　用ひられ　一方の大將 然るに　たゝちに　明智光秀　しづめ　朝廷　功　賞し　姓　たまひ　くわん なく　職　たまひき　晩年　とて　征伐 勇と男功ト切　ありきとありたまひきとの比較

応用　(一)、秀吉は智勇のすぐれた人でありましたゆへだん〳〵りつしんして日本全國を平らげくわんをくといふ役にせられました

(二)、秀吉のことを書いた本を二三日おかし下さい

注意　秀吉の卑賤より起りて立身せしは智勇の勝れたるに依ると雖も又其主に仕ふることの忠實なりしに依りたることを知らしむべし

教材　商人（全第二十課）

時數　五時間　第二週

準備　掛圖及繪畫の類

要項　内容

(一)、商業及商人の種類

(二)、商人は正直を第一と心得べきこと

(三)、受取証の書式

形式　ニモアレ　仕入　商ヒ　商人　問屋　仲買　小賣　オロス　カヽハラズ　賣リ　サバク　口錢　取次ノ　正直　何人　信用　得意　右正ニ受取申候也

応用　持と待　賣と買との比較

(一)、品物を仕入たり賣り渡したりする人を商人といひます商人は正直を第一とせねばなりません

(二)、けふ津山に行き一錢五厘ノ筆三本ト五錢のすみ一ちよーとを買ひました

將來　國語讀本卷八第十二課

教材　正直の德（全第二十一課）

時數　五時間　第二週第三週

準備　掛圖

要項　内容

(一)、田舍の商人江戸にて古着を仕入しこと

(二)、和田屋間違を發見して餘分の金を戻せしこと

(三)、和田屋正直の德により信用を得大なる古着問屋となりしこと

形式　正直ノ德　いなか　せんこく　お取引き　古着　ふそく分　いか程　餘計　買手　ひきもきらず　數十人

應用

(一)、今日お送り下さいました品物はたしかに受取ました

(二)、和田屋か大きな古着問屋となりましたのはなぜでございませうこれはまつたく正直の德でございます

教材　四面皆海（仝第二十二課）

時數　四時間　第三週第四週

準備　日本地圖

要項　內容

(一)、我國は島國なること

(二)、海國なれば船の必要特に大なること

(三)、富國强兵の爲め海を利用すべきこと

形式　島國　日本海　支那海　太平洋　こと〳〵く　必要　さすれば　商船　利用　國ヲ富す　つとむへきなり

洋と海必と心云ひと云ふよろしくとよろし如キと如しとの比較

應用

(一)、船にはぐんかん商船りよーせんなどありてじよーきの力で走るのと風の力をかる

のとあります

(二)、我國は島國てありますこの島國に生れた我々は先づ船にのることを心得ておかねはなりません

注意　海事思想の養成に勉むへし

將來　國語讀本八卷第二十四課

教材　軍艦（仝第二十三課）

時數　五時間　四、五週

準備　軍艦大砲ノ模型

要項　內容

(一)、軍艦の構造種類用途

(二)、軍旗及ヒ大砲ニ關する智識

(三)、軍艦の心要なること

形式　軍艦　せんとー艦　海防艦　じゆんよー艦　すいらいてい　とも　軍艦旗　かゝけたるは　將旗　かんぞん　大砲　水兵　萬一　かんよー　なる

應用

私は船にのることがすきでありますから大きくなつたらかいぐんにでたひと思ひます

既往	(二)、我國には富士艦をはじめとしてつよい軍艦がたくさんあります 國語讀本卷一ニさせんぐんかんあり
教材	十月 海の底（全第二十四課）
教時數	五時間 第五週
準備	繪畫
要項	內容・ (一)、海底の地形海底には種々の動物住み種々の植物生すること (二)、海底の有樣の愉快なること 形式 たとへば 一樣ならず 生す のり こんぶ あらめ わかめ さんご 海松 あはび かき はまぐり 帆立貝 落花 ちりしく 浦島太郎 たひ かれひ かつを たこ いか 海綿 うに くらげ ふれん りゆーぐー城
應用	(一)、こんぶ、あらめ、わかめ、などは海にてきる草でたひかれいかつをなどは海に住む魚であります (二)、浦島太郎の昔話の本をおかへし申しますまことにありがたうございました

注意	浦島太郎の說話するを要す
既往	卷四第四課ニ海ノケシキアリ
將來	
教材	富士山（卷六第一課）
教時數	三時間 第六週
準備	繪圖
要項	內容 (一)、富士山は本州第一の高山なること (二)、其山容の美しきは世界無比なること (三)、富士山は燒火山なること 形式 頂上 四季 しほらしく 世界 駿河ノ國ふもと 全く 頂と頃との比較
應用	(一)、日のまるの旗は我國の國旗でありますからゆうううつくしい國旗は世界に二つとはありませぬ

既往　國語讀本卷二第一

教材　日本武尊（全第二課）

時數　五時間　第六週第七週

準備　繪畫

要項　內容

(一)、尊天皇の命によりて熊襲征伐に赴き給ふこと
(二)、尊少女の姿となり健の家に入り込み給ふこと
(三)、川上健尊の武勇に感じて御名を奉りしこと
(四)、尊東夷征伐の時寶劍を抜さて危難を遁遂に賊徒を亡し給ひしこと

形式　クマソ　一族　頭　小碓命　小女　健　チリシモ　酒モリ　アリシガ　エヒテ
武勇　日本武尊　名ノリ給ヘ　エビス　再ビ　勅　イツワリ、コーサン　ナギ
コナタ　カナタ　殺サントス

(二)、このづをごらんなさい向うに高く見ゆるのは富士の山で其下の海を走つて居るは帆かけ船であります

應用

(一)、日本武尊ハ女ノ姿ニテ健ノ家ニ入リコミユダンチ見スマシ健チサシコロシツヒニクマソチホロボシタマヒキ

(二)、日本武尊のおもちわそばされし御つるぎの名は何と申しますかおしらせ下さい

注意　尊高貴の身を以て國家の爲めに盡されし事を感せしむると共に報國の念を喚起すべし

教材　山上のながめ（全第三課）

時數　四時間　第七週

準備　繪畫

要項　內容

(一)、山上の眺望
(二)、地理上の智識

形式　はるか　こんもち　氏神　なみき　岡　うねり〳〵　入江にそゝぐ　岬　平野
知りぬ

森と林道と通知れぬと知れず知りぬと知りたりとの比較

(一)、我等が住むところは山の中なれば高き山にのぼりても海を見ることかなわず

應用

(二、)私はきのふお花さんと向ふの山に上りましたが遠くの方の田や畑や道や川まで皆一目に見えてよいけしきでありました

注意　地理上の語を授け観察力を精密にし想像力を養ひ地理學上の興味を起さしむべし

既往　國語讀本巻四第四課

教材　國のけもの（仝第四課）

時數　四時間　八週

準備　繪書摸型

要項　內容

(一)、家蓄及山野に産する獸の智識

(二)、其形狀性質常習效用等

形式　ちん　獵犬　家蓄　ぶた　羊　むくら　もち　りす　鹿　熊　ひくま　うさぎ　手おうて　ねのしゝ　鯨　あじか　あざらし　をつとせい　かわうそ　らつこ

(一)、牛馬ぶた羊犬猫などは皆家にかふけもの故家蓄といひます

(二)、かたづねのくじらは魚に似てゐますけれども海に住むけものだと先生からうけた

注意　既知の動物は復習に過ぎざるも蝙蝠鯨等の獸類等は新敎授に屬するが故に最も注意して授け兼て文學的趣味を喚起すべし

應用　まはりました

十一月　四週

教材　動物ノ職業（仝第五課）

時數　七時間　第八週第九週

準備　繪書摸型

要項　內容

(一)、動物には皆それ〴〵の職業のあること

(二)、人として業なきは虫けらにも劣つべきこと

形式　職業　手間賃　製造者　暑中　ウマス　及ブ　量　スチン　ナラデ　カリウド　坑夫　巧ニ　とんねる　ウガチ　土ノ塔　石油　ガス　電氣燈　習ハズシテ及ビ友反作ラバ作レバの比較

(一)、蠶ハ糸ヲツムグヲ業トスルモノ故人ノタメマコトニ大切ナル蟲デアリマス

應用

注意　（二、）鳥獣にも皆ソレ〳〵仕事ガアリマス人間デ仕事チセヌノハコレラノ動物ニモハズベキコトデハアリマセヌカ

既往　観察力を精密にし兼て勤勉の徳を養ふべし

前課に國のけものアリ

教材　高橋東岡のつま（仝第六課）

時數　五時間　第九週第十週

準備　繪畫

要項　内容

（一）、東岡のつま夫の志を助けしこと

（二）、東岡柿の木の爲に學業專一ならざりし事

（三）、つま柿の木を切りて夫を勵ませしこと

（四）、東岡遂に業を成しとげたること

形式　天文學　くらし向き　惡少年　意外　なまなか　げにも　ふらん　ひいでたる

學者　ざりき

應用　庭と廷妻と書との比較

注意　（一）、このゑは東岡外よりかへりて柿の木の根本よりきりたふしてあるを見驚きてつまをよび其わけを問ひをる處なり

（二）、何ごとでも一心ふらんに勉強するなれば東岡の如くひいてた人となることができます

既往　（一）、女子に對しては特に東岡の妻の賢なることを感知せしむべし

（二）、夫婦相和し

將來　修身教本卷四第六課

教材　有用なる植物（仝第七課）

時數　四時間　十、十一週

準備　植物標本繪畫ノ類

要項　内容

（一）、植物に關する智識

應用	既往將來	教材	時數	準備	要項
(二)、植物の用途廣きこと 形式　器物　衣服　材木　野菜　ハショー　楮　ハゼ　漆　大オー　カヒバ 材と村林板と坂藥と樂と薪と新或はと又はと可クと可しとの比較 (一)、一ッ五錢くらひのふたつき茶わん十人まへ今日中にお送り下さい (二)、人間に最も必要なる物は多く植物より取る五こく野菜は食物にあて綿麻桑あるは衣服の料となり松杉ひのきの類は家をたつる材木となる	國語讀本卷五第五課 全卷八第六課	石炭及石油（全第八課）	四時間	第十一週 繪畫 內容	
(一)、蒸氣機關原動力に關することと (二)、石炭及び石油の功用産地等					

應用	既往將來	教材	時數	準備	要項
形式　製造場　蒸氣機關　機械　蒸氣力　ヂシン　變化　質カタタ　炭坑　必要品 ヂシン　等シク　幾萬貫　肥前　豐前　盤城　北海道　場處　越後　産出高 トーティ　スコブル　質と賃質と賃化と花との比較 (一)、石油は地中より生ずるものにて火をともすにすこぶる必用なる品なり (二)、石炭の火力にてかまの水をわかせばつよき蒸氣を生じまして大きな機械を動かします		象ノ目方（全第九課）	五時間	十二週 繪畫 秤 內容	
(一)、或國王王子や臣下に象の目方を量れと命せしこと (二)、人々其秤量にくるしみしこと (三)、王子の頓才舟にて其目方を量りしこと					

形式　或國　王子　臣下　象　量れ　秤　おうけ　近臣　泉水　やかて　今度　ちよ
　ーど　總高　何千何百何十何貫何百何十何匁

王と玉乘と來との比較

應用
(一)、小さい物は秤にかけて量れますが牛や馬の樣な大きなものは目方を量ることがむつかしくございます
(二)、おたのみになりました二貫目かゝりの秤ははんばい所にきれてゐましたからそう思ふて下さい

注意　智能ヲ啓發ス

十二月

教材　松山鏡(上)　(仝第十課)

時數　二時間　十二、十三週

準備　繪畫

要項　內容
(一)、獨娘よく母親に似たること
(二)、娘十歳のとき母病にかゝり死にのぞみて鏡を與へしこと

形式　夫婦　生うつし　いまはきは　なき後　あたへて　みまかりぬ

夫と天丈との比較

應用
(一)、御母上樣ごびよーきはいかゞでございますかおたづね申します

既往　修身教本卷一ダイ四ニアリ

教材　松山鏡(下)　(仝第十一課)

時數　三時間　第十三週

準備　繪畫

要項　內容
(一)、娘なき母のこひしきまゝに鏡を取り出し見し事
(二)、我身のかげを母と思ひあやまりよろこびし事
(三)、父これをあわれがりし事

形式　こひしきまゝに　なつかしの　よぶこそあわれなり　いぢらしがりて

應用
(一)、この娘は鏡を見てよろこんでゐますこれは我身のかげを母親と思ひちがへておるからであります

注意　(二)、母の病氣もせんかいいたしましたからごめん心下さい私もおしたから學校へまゐります

(一)、親子の愛情少女の不幸等につき兒童の同情を喚起し孝心を養ふべし
(二)、父母の病氣に待する時の心得を訓ゆべし
(三)、父母ニ孝

既往　國語讀本卷五第四課

教材　楠木正成（仝第十二課）

時數　五時間　十三、十四週

準備　繪畫　正成公肖像

要項　內容

(一)、北條高時朝廷にそむきしこと
(二)、正成高時方の大軍に圍まれしこと
(三)、正成奇計を以て賊をなやましたること
(四)、高時亡びし後足利尊氏又朝廷にそむきしこと

(五)、正成湊川にて戰死せしこと
(六)、正成湊川神社に祭られしこと

應用　形式　楠木正成　ごだいご天皇　北條高時　そむき　官軍忠臣　居城　しばゝ　めぐらし　なやまし　かゝりし程　やぶり　御運　衰へ　宿　ゆいごん　本國　正成　攝津國　湊川神社　戰死　忠臣ノかゞみ　神戸　忠ど志　如しと如ら如くとの比較

注意　(一)、湊川神社は我國忠臣のかゞみなる楠木正成公を祭りたる宮なり
(二)、正成は大きな木や石をなげ、にるゆをかけなどして賊の大軍をなやまされました
義勇公ニ報ス

將來　國語讀本卷七第十二課

教材　北海道（仝第十三課）

時數　六時間　第十四週第十五週

準備　地圖　エゾ人ノ圖

要項　內容

應用	注意	
		(一)、北海道とは蝦夷と千島との總稱なること
		(二)、あいぬ人ノコト
		(三)、北海道の産物都會等
		(四)、見舞文及返事のこと
		形式　トヾ石　千島　あいぬ人種　内地　移住ジマッタ　風俗　富　さけ　ます
		にしん　函舘　札幌　小樽　道廳　みぎり　候や　忝く存候　無事　候間
		下さるへく候
		(一)、北海道トハエゾト千島トヲヒクルメテ云フノデアリマス
		(二)、皆樣御さはりもありませんそーでよろこびますおい〳〵寒さになりますから御用心なさいまし
		(一)、北海道は土地肥へ海産物に富み有望の地なることを知らしむべし
		(二)、地理的興味を喚起し愛國の情を養ふべし
		國語讀本卷五第九課

第三學期　十五週

一月三週

教材	德川光國（全第十四課）
時數	六時間　第一週
準備	繪畫
要項	内容
	(一)、光國召仕の女中等に製紙所を見せしめしこと
	(二)、女中等寒さを忍びて見物に行きしこと
	(三)、製紙ノ模樣及職人等の辛苦の有樣
	(四)、光國の訓誨及其性行
應用	形式　水戸　德川光國　製紙所　見しめ　折りから　なほて道　こらへつゝ　ひたすわく　わつかふ　いたく〳〵し　いたましき　だにも　思ひやりの心　のみならず
	皮と及具と貝との比較
	(一)、紙は字又はゑをかきしよーじにはるなど其つかひみち廣きものにて楮の皮わらな

注意	とにて製す (二)、徳川光國公は學問をこのみ忠君の心あつかつたばかりではありません又思ひやりの心か深くよく民をあはれんだ人であります (一)、思ひやりの心を養ひ儀仗を慎み節儉を守るべきことを自覺せしむべし
教材	鑛山の話（全第十五課）
時數	六時間 二週
準備	繪畫 鑛物標本
要項	内容 (一)、採鑛の有樣 (二)、鑛坑の狀態 (三)、坑夫勞働のこと (四)、鑛山の種類 形式 れーる 鑛石 試ニ 一秒毎ニ 坑夫 カナテコ 幾階 サル場 マレニ 利益 鐵坑 金銀坑

應用	止と正岩と炭との比較 (一)、ナベ、カマ、コガタナ、ホーチョーナドニ造リタル鐵ハモト鑛山ヨリホリ出シタモノナリ (二)、私はわしたの朝兄さんと北山の鑛山を見にゆかうと思ふてをりますがあなたもいつしよにおいでなさらぬか
注意	鑛山見物等ニツキテノ注意ヲ與フベシ
將來	國語讀本卷七十六課
教材	手がさわると黃金（上）（全第十六課）
時數	四時間 第三週
準備	繪畫
要項	内容 (一)、黃金ずきの王、王女の爲に澤山の黃金を殘したしと思ひしこと (二)、黃金の神王に其望を問ひしこと (三)、王黃金の神に非常の大慾望をなしゝこと

應用

形式　黄金　ちよーあい、例の通　術

倉と君との比較

（一）、黄金は金るいの中で一番貴ひものでありまして其色はきいろであります故に黄金と申しす

二　月　三週半

教材　手がさはると黄金（下）（第十七課）

時數　六時間　第三週第四週

要項　内容

（一）、手のふる物皆黄金となりしこと

（二）、王女の金となりしに驚きて神に願ひさけをなせしこと

形式　奥殿　はら　案外忽ち　金の像　きよーき

香と番案と安との比較

應用

（一）、あまりよく深いとこーかいをせねはなりませんむかしばなしにあるよくふかばゞもそのとほりでありました

注意

（二）、兄がきゆー病でくるしんでをりますからどーぞすぐにおいで下さいおねがい申します

（一）、寡慾慈愛仁慈の諸德を養ふべし

教材　水ノ功用（第十八課）

時數　五時間　四、五週

準備

要項　内容

（一）、水は無價なること

（二）、水の有用なること

（三）、水の效用

形式　得ラルレバトテ　タヤスク　生活　アタハス　要シ　保テハナリ　死ナン　アゲテ

久と文肉と内働と動との比較

應用

（一）、世の中ニ水程大切ナモノハアリマセンモシ水ガナカツタラ人モ鳥も獸モ蟲モ魚モ

草モ木モ皆死ニハテ、シマイマス
(二)、水ノ大切ナコトハ日デリガツヾク時ハ田畑ノ作物ガ成長セヌナド見テモ分リマス

教材	水鳥のまがひもの(上)（第十九課）
時數	二時間 五週
準備	繪畫
要項	内容 (一)、家鴨の形狀常習 (二)、あひるの藝じまん
	形式 かもめ 沼 多藝 ほこりけり まがいもの
應用	(一)、餘寒がたいそーきびしうありますがおさはりはありませんかこのかもをお見まひのしるしにさし上ます
既往	國語讀本卷四第二十一課
教材	水鳥のまがひもの(下)（第二十課）

時數	三時間 第五週第六週
準備	繪畫
要項	内容 (一)、あひる荷馬に向ひて自慢せしこと (二)、馬あひるに向ひつまらぬ藝の多からんよりよき一藝の優れることを說きしこと
	形式 う しらすや さすが こや
應用	人はつまらぬ藝の多からんよりもよき一藝にひいてたるかましなり
注意	(一)、自慢自負の愼むべきを訓誡すべし (二)、イカニ藝術ニ達スレバトテ誇ルヘカラサルコヲ論スベシ (三)、他より罵らるゝも腹立てす且他の非をさとすには顏色柔和言葉やさしくすべきことを敎ふべし
既往	國語讀本卷三第二十一課
教材	義俠なる鶴（第二十一課）

時數	四時間　第六週
準備	繪畫
要項	內容
用意	(一)、雀蛇のために雛を呑まれんとせしことと (二)、鶴蛇を殺して雀の子を救ひしことと (三)、人は義俠心なかるへからさること 形式、ひな　のまんとす　きよー氣　隔れるとや思ひけん　たやすく　救ひ　義俠 すら　ふるまひ
注意	(一)、この鶴は蛇をつきころして雀の子を助けよーとするとこでありますかよーな行を義俠と申します (二)、きゝますればつるをのゝかかけであぶなひところを助かりなさつたそーでおめでたうございます 憐愍同感の情義俠の意志を養ひ人の危難を救ふへきを知らしむべし

三　月　三週半

教材	隣國（全第二十二課）
時數	六時間　第七週
準備	東洋地圖古像繪畫
要項	內容 (一)、朝鮮支那ノ地誌 (二)、我國との歴史上の關係 形式　隣國　朝鮮　つしま　はゞ　支那　清國　古代　古來　關係　神功皇后　三韓 弘安ノ役　事實　稱ス
應用	過と通と比較 (一)、我國にもつとも近き外國はちよーせんにしてつゞきては支那帝國なり (二)、我國は昔から外國とせんそーして一度もまけた事はありません中にも三韓征伐豐臣秀吉の朝鮮征伐弘安の役明治廿七八年の役ノ如きは名高事實であります
注意	(一)、愛國の情を喚起し善隣の誼を全うすべきを訓諭すべし
既往	
將來	

國語讀本卷八第二十一課

教材	征清軍（第二十三課）
時數	七時間　第八週第九週
準備	海陸戰爭圖
要項	內容　征清軍ノ大勝利及原因結果 形式　威　無法　一せい　たけく進軍す　正義　きへる　豐島ニがさん　へいじよー 海洋島　義州　旅順　威海衞　破竹　北京城　和をこひぬ　獨立　ちかはせる 名譽　日清　くま〳〵
應用	破と波和と利との比較 (一)、どうぞおからだをじよーぶになされ御國のためあつぱれのおてがらをなされますよーねがひますこちらは皆〳〵無事でありますからお心をいなさいますな (二)、征清軍は支那が朝鮮國をはづかしめ我軍に手向ひをしたから起つたのであります
注意	義勇公ニ奉ス
既往	修身教本卷三ニ勇ましき兵士ア リ 義勇公奉せよ
教材	赤十字社（仝第二十四課）

時數	七時間　第九週第十週
準備	繪畫　赤十字社徽章
要項	內容 (一)、戰爭の際ハ多數の死傷者を出すこと (二)、軍人の相ひ戰ふは皆國の爲めなること (三)、赤十字社の目的 (四)、赤十字社のなしゝ事業 形式　負傷者　彈丸　ソモ〳〵　道ニアラズ　目的　現ニ　地方　平時　赤十字社 病院規則　至急 傷と場恩と思との比較
應用	私ことせん日の戰ひに少し右の手を負傷いたしましたけれども赤十字社病院にてねんごろなるかいほーをうけて居ますから御心をい下さいますなと兄よりいふてきました
注意	赤十字社ノ目的ハ戰場ニオモムキテ敵味方ノ別ナク病兵負傷兵チイタハリ救フノデアリマス (一)、赤十字社の事業につきては我　兩陛下の殊に御心を用ひさせ給ふことを知らしむ

既往	將來
へし	(二)、博愛衆ニ及ホス 修身教本卷三第十課 仝卷四第十一課

尋常小學校第四學年國語科教授細目

第一學期　十五週　九十時間

四月

教材　神武天皇　卷七第一課

豫定時數　四時間　第一週

準備　神武天皇の御肖像、御東征の繪畫、橿原宮の畫

教授要項

內容

(一)、神武天皇は我が國第一代の天皇なる事

(二)、御東征の始末御卽位の事

(三)、皇統連綿として第百二十二代今上天皇に至る事

形式　オハシケルガ、ハヒコレル由、平ゲントテ、ヒキヰテ、東征、タマフ、悉ク、皇統、大和橿原、御位、ツカセラレタリ、及ベリ、今上天皇陛下

應用　神武天皇は我國第一代の天皇にして今より二千五百六十年餘りの昔大和の橿原の宮に

教授注意	て御位につきたまひしなり (二)、コノエハ神武天皇御東征ノナリノサマデアリマス悪人ドモハ皆御イキオイニオソレテニゲテサマス (一)、勅語ニ我皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ」の意を体せしむ (二)、忠君愛國の思想を振起せしめんことにつとむへし
已往關係	修身教本卷二第二課卷四、第一課國語讀本卷五第九課
將來關係	國語讀本卷八第一課
教材	神戸より東京まで　全第二課
豫定時數	六時間　第一週第二週
準備	日本地圖及ひ各地風景繪書
教授要項	内容 (一)、神戸より大阪奈良を經て京都に至り東海線に依りて東京に至ること (二)、吉野の櫻奈良の大佛春日神社のこと (三)、琵琶湖、名古屋、の離宮、富士山の景箱根のとんねる横須賀横濱の地理的思想

應用	形式　神戸、大阪行かるれど　盛　滿山　奈良　京都　琵琶湖　岐阜　金のしやち 離宮　濱松　靜岡　トンテル　鎌倉　横須賀軍港　造船所　美はしき　商館 貿と貿賃との比較 (一)、富士山は日本一のきれいな山にして其形は扇をさかしまにかけたる如く頂上には四季雪をいたゞき寫眞なども及ばぬ美はし景色であります (二)、この頃は櫻の花もさい中のよしにつき明後日父とともに大和めぐりをかね吉野の景色を見にゆこーと思ひますから御一しよにお出でなされてはどーでありますかさそひ申し上けます (三)、横濱
教授注意	尋常科に於ては別に地理科の教授無きか故に成るへく興味を付け各地の風土人情景色などを授け地理的思想の基礎を作る
既往關係	前課大和橿原奈良等國語讀本卷五第一、九、十二、十六、十八課、卷六第一課
將來關係	一、本卷十三課
教材	勉強と成功　全第三課

豫定時數　六時間　第二、第三週

教授要項　內容

（一）、或る商館にて丁稚を募りし事、

（二）、子供に毬をつかせ試みし事

（三）、或る兒童再三募集に應し遂に採用せられ立身せしこと

形式　てつち　廣告　募りけるに　申してむ　及びぬ　やがて　つとつきしが　例の　如く　はねあがり　くやしく　心がけあらば　立身　番頭

果ト菓ノ比較

應用

（一）、何事も一心に勉強すればできぬことはありませぬこの棒を持てる小供はとーどーみごとにまりにつきあてました

（二）、私方十二三のでつち一人入用につきほどよきものがありますれば御雇ひ入れ下されたく候

教授注意　精神一到何事不成ノ意ヲ諭シ耐忍勉強の力を養ふべし

既往關係　一、前課及國語讀本二、卷三、第二十四課卷四、二十課

五月

教材　菅原道眞　仝第四課

豫定時數　三時間　第三、第四週

準備　菅公肖像　御衣ヲ拜スル繪

教授要項　內容

（一）、道眞公は學者にして忠義深かりしこと

（二）、惡人の讒言に依り筑紫に流され其土に死せしこと

（三）、後罪なきこと明かとなり朝廷より神に祭られしこと

形式　天滿宮　仕へ奉りて　ざんげん　しりぞけ　君恩　思ひ出でゝ　むせびき

正一位　大政大臣、位官

應用　廷と庭罪と非との比較

（一）、我々が學問の神樣として祭れる天神樣は菅原道眞公でありますこの人は幼きときより學問を好み天子樣に忠義な人てありました

（二）、菅原道眞公は九州にしりぞけられましたけれども少しも朝廷をおうらみなさるゝ心なく朝ばん天子樣より頂きし着物を拜し涙にむせばれしと云ふ

教授注意　（三、雛天神を送る文
君恩の高きを思ひ忠義の心を失はさる樣特に注意すべし

既往關係　修身教本卷三第二、三、四課國語讀本卷六第十二、十四課

將來關係　本卷第二十三課

教材　女子の務　仝第五課

豫定時數　四時間　第四週

教授要項　內容
（一、女子は氣立のよきを第一とすること
（二、夫及び舅姑に仕ふる心得
（三、下女下男に對する心得
（四、家事經濟育兒のこと
形式　氣立て　顏ふり　そねまず　しとやか　すなほ　とつげば　ふたしうと　思ひやり　うき　分かてかし　さりながら　たちぬひ　料理　まかなひ　ゑい生成熟せん　すこやか　重き務め

應用　夫と天借と昔との比較
（一、女子は顏形のうつくしきより心すなほにやさしくして讀み書きたちぬひ料理を一わたり心得おくのが大切であります
（二、むらさきしきぶは才學のすぐれた人であつた人であつたけれども人には一字だに知らぬやうにして居られましたそーです

教授注意　女子の本分を充分說示するを要す

既往關係　國語讀本卷六第六、十、十一課修身教本卷三第十四、十五課

教材　金錢出入帳　仝第六課

豫定時數　三時間　第四週第五週

準備　帳簿雛形

教授要項　內容
（一、金錢出納は明かにせさるへからさること
（二、帳簿記載を怠らさんこと及ひ其記載式
形式　入之部　前月越高　賣上金　賣かけ　出之部　品物仕入　やほや拂

應用　おなた樣明日岡山へお出なされ候とのこと御手數なれど私のさすこしもりがさ一本御買ひ求め下されたく御頼み申上候

教授注意　(一)、帳簿の形式を授け記入を練習せしむもよろし
(二)、帳簿中金錢の合計は便宜算盤を用ひしむるもよろし

既往關係　前五課

將來關係　國語讀本卷八、十一、十二課

教材　何事も順序　全第七課

豫定時數　五時間　第五週第六週

準備　

教授要項　内容
(一)、何事も皆順序を經すして出來得るものにあらす
(二)、其例として稻衣服家屋等に付き順序手數のこと

形式　如何にして　心配を重ね　支米　かしぐ　へしぞや　幾坪　地ぎよー　土臺　骨ぐみ　造作　指物師　表具師　然らざるはなし

應用　骨と肉富と富　勿と忽との比較　候はゞと候へばとの區別
(一)、家を建るには先づ地固めをなし土臺をする材木にてそれ〳〵骨ぐみを作り屋根をふきかべをぬり色々の造作をなし始めて一つの家となるなり
(二)、うけたまはりますればお家の御ふしんができ上りましたさーでおめでとーぞんじます此品はそまつなれど御祝として差上候

教授注意　(一)、無謀ノ經擧ニ出ヅベカラザルコトヲ充分說示ス

既授關係　國語讀本卷三第十二、二十課卷四第十一課

教材　空氣　全第八課

豫定時數　四時間　第六週

準備　排氣器　雀又ハ鼠

教授要項　内容
(一)、朝の散歩の心地よきは空氣新鮮なるか爲めなること
(二)、空氣は生物界に必要なること
(三)、空氣に滯汚あること

（四）、室内空氣の流通をよくすべきこと

形式　しののめ　散歩　さわやか　新せん　呼吸　生活　無くてかなはぬ　出たさば
おぼるゝ　けがる　室内　流通

到と倒　活と治　健と建　空と室との比較　出たさばと出たせばとの區別

（一）、空氣は人の生活に無くてかなはぬものにて目には見ゆねども清きとけがれたるとあれば時々室内に新せんの空氣を流通せしむるよー氣を付くべし

（二）、先日はめづらしき品を下され御禮申上ます此たび出來わがりました家はそまつではありますがしづかで風とーりがよく書を讀むによろしく候故一日御遊ひに御出で下され度候

（一）、空氣は地上何れの所にも存在することを知らしむべし

教材	三羽の蝶　全第九課
豫定時數	五時間　第六、第七週
準備	草花、蝶ノ標本又ハ繪書

教授要項

内容	（一）、三羽の蝶が俄雨にうたれし事 （二）、互に友情を重んじ自己の利益のみを計らざりし事 （三）、自然も之を憐み清朗なる天氣となりし事
應用	形式　野べをば　何とせん　ぬるゝとぬれる　しばし　縁のある　たをる　白百合　うら〳〵と 黄と苗との比較　ぬるゝとぬれる　宿かさんと宿かせんとの區別
教授注意	（一）、赤白黄の三羽の蝶は廣き野べにてこゝちよげに遊びける内にはかに雨ふり來りし故皆おそろきて宿をさがしました （二）、白百合
已往關係	（一）、勅語「朋友相信ジ」の意を体せしめ友愛の情を喚起すべし
將來關係	（一）、修身教本卷ノ二第十課

教材

六　月

鳥獣合戰（一）　全第十課

豫定時數　五時間　第七週第八週

準備　鳥獸の標本繪書

教授要項

內容

(一)、狸と兎とが林中にて鶯の鳴聲を聞き感心せしこと

(二)、狸鶯の巢を見て行き其雛を傷けし事

(三)、鳥類わしを賴み敵打ちの相談をなしゝ事

(四)、蝙蝠兎を憐み虎に相談し獸類團結せしこと

形式　さだめし　ねよう　こよう　したつて行く　さんざんに　こつきこわし　程た

つて　此てい　用意　まさぞへ　合戰

巢と菓との比較　なくてとなくして

(一)、或る日狸は森の中で鶯の鳴き聲を聞て大そう感心しあの位美しい聲の鳥はさだめ

し美しい巢の中に住んでゐようと思ひ兎と一しよに見物に行きました

(二)、多くの鳥は鶯が狸のために巢をこはされひなが傷をつけられたのを見て氣のどく

に思ひわしを賴みかたきうちの用意にかゝりました空をとぶものは蝙蝠の外は皆

鳥の身方でありました

教授注意　同種族一致團結より國民の一團結一致するの必要を說き勅語「億兆心ヲ一ニシ」を体せしむ

既往關係　(一)、前課の友愛ト一致セシム

(二)、修身教本卷二第二十一課

教材　鳥獸合戰(二)（練習文）　仝第十一課

豫定時數　六時間　第八、第九週

教授要項

內容

(一)、合戰の前日獸類評議して狐を指揮官となしたること

(二)、遂に戰となり蜂の爲めに狐の計略破れ獸軍の破れし事

形式　かけ引　忘れまいぞ　いさい　鳥ども　ときの聲　ちくりとさす

(一)、あなたのお內のやぶで昨日雀合戰があつたそーですが讀本にある鳥獸合戰の話と

どちらが面白くありましたかどうぞ知らせて下さい

(二)、わしは鳥の中で一ばん大きく力も強くありますから鳥の方の大しよーとなりま

教授注意	した
	如何なる剛力にても不義の戰には勝つへからさる事
既往關係	國語讀本卷六第二十三課
教材	楠木正行　仝第十二課
豫定時數	四時間　第九週第十週
準備	正行公省像繪畫
教授要項	内容
	(一)、正行公父の遺言を守り常に朝敵を討つの念深かりしこと
	(二)、義兵を擧げ四條畷に打死せしこと
	形式　ゆいごん　かりそめ　だにも　まねび　餘念　山名　細川　めざましや　つなみ　かうべ　一族郎等　四條畷　矢さけびの音　こつたる　きそふ　さつと　遠矢　かききつて　惜まぬ　人こそ
	(一)、楠正行公は忠義なる人にて父の教へを守り賊と戰ひて度々之に勝ちしが後四條畷
應用	

教授注意	にて討死したり今は神と祭られて四條畷神社と申します
	(二)、徵兵にゑらばれたものは常に士官の命令に從ふて能く其務めを勵み事ある時は命を惜まずして國の光をかがやかす事をつとめねばなりません
既往關係	(一)、勅語「義勇公ニ奉シ」の主旨を體せしむへし
	(一)、國語讀本卷六第十二、二十三課仝卷七第四課參照
	(二)、修身教本卷三第十二課
教材	東京より函館まで　仝第十三課
豫定時數	五時間　第十週第十一週
準備	日本地圖家康公省像日光及び松島の景
教授要項	内容
	(一)、東京上野停車場より東北に向ひ日光を經て北海道函館に達する間の地理的事項
	形式　上野　利根川　霞ヶ浦　水戸　磐城　宇都宮　日光廟　福島　仙臺　松島　盛岡　青森　函館　日本三景　ハテ　艮港
	營と勞　說と設　臺と壹との比較

應用　(一)、私こと此頃讀本で旅行の所を學んで居りますが色々土地なのありかゞ知れません
からぜひ一か日本の地圖を二三日御貸し下され度願上候
(二)、松島
(三)、日光

教授注意　地理的思想を養ひ日光松島の審により審美的觀念を喚起すべし

既往關係　國語讀本卷五第九課卷六第十三課

將來關係　本卷第十九課

教材　塗物と燒物　全第十四課

豫定時數　四時間　第十一週

準備　日本地圖、漆器、陶磁器の標本

教授要項　內容
(一)、塗物の原料及び其種類產地
(二)、陶磁器の別及び其種類產地
形式　世界無比　輪島塗　會津塗　ロクロ　スヤキ　瀨戸燒　肥前　伊萬里

應用　清水　加賀九谷燒
(一)、茶椀ハ土又ハ石ナンダキ粉トナシテリ固メ種々ノ形トナシテ日光ニカワカシモヨーチカキクスリヲカケテ再ビ之ヲ燒キ製スルモノナリ
(二)、先日御注文の膳、椀、程よきものまねり居り候につき御便もあらば取りに御出で下され度候

教授注意　(一)、漆器は輸出品にして世界無比の名產なること
(二)、工業思想養成に注意せよ

已往關係　國語讀本卷六　九課

七月

教材　工業の歌　全第十五課

豫定時數　三時間　第十一週第十二週

準備　鑄物、陶磁器、革、竹、木細工物

教授要項　內容
(一)、指物、燒物いもの塗物細工物等い皆大切なる工業なること

應用

（二）、勸業ノコト

形式　いもの　細工物　たぐひなし地や　高蒔繪　らでん　ときだし　工業　ゆめ怠るな

蒔と時　張と帳との比較　知らぬと知れぬとの區別

（一）、蒔繪は塗物の上に金の粉にて色々の繪を書いたものであります

（二）、加藤景正は幼い時から燒物を造ることを好みましたが遂に支那に渡つて十六年間苦んで其製方を學びました

（三）、此の土人形は私がけいこのひまにこしらへましたのでありますから御らん下さい

教授注意

（一）、勅語「學ヲ修メ業ヲ習フ」に統合す

既往關係

國語讀本卷五第十七課、卷六第十五課及ビ前課參照

教材　有用なる金石　仝第十六課

豫定時數　六時間　第十二週第十三週

準備　金石標本、貨幣及ビ　製作品

教授要項　內容

應用

（一）、有用なる金屬の性質、種類、用途、

（二）、有用なる金屬の性質、種類、用途、

（三）、特に黃金金剛石に付きての智識

形式　黃金　價貴し　箔　電線　貴カラザレドモ　活字　水銀　錫　金剛石　紅玉　水晶　メノー　印材　普通　花崗石　藥品　ラルレド　イー多シ

印と卵との比較

（一）、コー山カラ堀リ出スカ子ヲコー物ト云ヒ吹キテ金トシマス

（二）、金銀ハ貨幣、時計、指輪等ニ作リ銅鐵ハ日用ノ道具及ビ武器ナドニ入用デアリマス

（三）、老母の眼鏡を注文する文

教授注意　前課ニ關聯シ工業思想を養成すべし

既授關係　國語讀本卷六第八課參照

教材　壚と砂糖　仝第十七課

豫定時數　六時間　第十三週第十四週

準備　壚、砂糖、及び壚田の繪畫

教授要項	内容
	(一)、鹽砂糖の効用、製法、産地
	(二)、鹽田の人生に必要なること
形式	食物ヲアンバイスル　甘蔗　モロコシ　四國　九州　臺灣　シボリ　石灰
	精粗　播摩ノ赤穗　阿波ノ齋田　蒸發　鹽分
	精と稍請甘と甘との比較　製セルモノと製セシモノとの比較
	(一)、鹽ハ海ノ水ヲ鹽田ニソヽギ其カワクヲマヽテ白クナリタルモノヲカキアツメテ水ニトカシテ之ヲニツメテ製ス色白クシテ昧ヒガラシ
	(二)、
	一監五百俵
	右正に受取り申候也
	年月日　受取人　氏名
	何々殿
教授注意	(一)、鹽砂糖の人生及び料理に必要なること
	(二)、海水のからきは鹽分を含有するが爲なること

既往關係	國語讀本卷四第三課及ヒ本卷第八課
教材	夕立　仝第十八課
豫定時數	四時間　第十四週
教授要項	内容
	(一)、夕立の景
	(二)、雨後の清涼
形式	風鈴　あわたゝしげに　ひらめき　かしましく　臺所　板の間　ぬぐひたる
	雷と電　晴と清との比較　そこの代名詞
應用	(一)、風のよく吹き雨はげしく降るいなびかりはぴか〳〵雷ごろ〳〵ゑんをうち屋根をうつ雨の音風の聲暫くゝ其外の聲ゝ聞ゑずなりぬこれ夕立のありさまなり
	(二)、妹こと昨日途中にて夕立に出あひお宅へ立寄おじやまいたし其上色々御ちそー下されありがたく存じ候
	本卷第九課俄雨ト對照

教材　函館より門司まで　全第十九課

豫定時數　五時間　第十五週

準備　日本地圖各地景色書

教授要項　内容

(一)、函館より日本海を經門司に至る紀行

(二)、佐渡の金坑天の橋立の景

(三)、函館より門司までの各地の地理的教授

形式　日本海　佐渡の島　金坑　越後新潟　直江津　信濃長野　上野の高崎　行くてに
親知らず　越中　富山　金澤　福井　敦賀　天ノ橋立　伯耆ノ境　出雲の松江
石見　長門　馬關　豐前門司

應用

經と輕との比較

(一)、函館より船にのりて日本海の荒き波をもいとはず新潟金澤敦賀を經て天の橋立の景色を見それより隱岐に立ち寄り伯耆の境港長門の馬關を經て門司に着きたり

(二)、天ノ橋立ノ記

(三)、兄用事あり丹後へ行き昨晩かへり申し候みやげに天の橋立の寫眞をもらひました

教授注意　から一枚差上候

既往關係　興味を附し地理的思想を養成すべし

本卷第十三課

第二學期　十五週　九十時間

九月

教材　ふか(上)　巻七第二十課
豫定時數　六時間　第一週
準備　ふかの模型繪畫
教授要項
內容
(一)、或る會社の氣船或る年の夏南洋に航したること
(二)、船長の令により游泳を初めし事
(三)、ふか襲ひ來り手々に本船へ歸らんとせしこと
形式　南洋　碇泊　ひらめ　せ泳　ぬき手　うき　泳ぎくら　うねり　急にぬかれて
氣をもみ　其とたん　だしぬけ
連と速　幅と福　恐と怒との比較
(一)、このづは南洋のある港に碇泊中の氣船の船員が暑さにたへられぬにより船長の許しをえて喜んで水を泳ぎ居る所でありますなんとげん氣な人々ではありませぬか

教授注意　(二)、船遊び誘引文
既往關係　(一)、海の宏大なることを知らしめ海事思想の養を務むべし
國語讀本卷四第四課卷五第二十二、二十三課

教材　ふか(下)　(練習文)　全第二十一課
豫定時數　六時間　第二週
教授要項
內容
(一)、十二、三才なる二人の子供はふかの來るを知らず今に其餌とならんとせしこと
(二)、大砲掛の老人狂氣の如くなり遂に大砲にてふかを射殺し子供の一命を助けたること
形式　すさまじい　狂氣　腹　ボートをおろし　きつと　いきをのむ　つんさいて
(一)、ふかは海に居る魚に似た大きな恐ろしい獸であります
(二)、昔船の小さかつた時分にはふかが折々船をひつくりかへすやうのことがありましたが今は軍艦や滊船がありますからかへつて陸よりわんきでありますます
(三)、近頃は暑さきびしくなり候が御さはりもなく暮し居り候

應用

教授注意　(一)、兒童をして海を恐るゝこと無き樣注意すべし

既往關係　國語讀本卷五第二十二課

將來關係　同卷八第三課

教材　琉球と臺灣　仝第二十二課

豫定時數　六時間　第三週

準備　日本地圖

教授要項　内容

(一)、琉球の地勢氣候、都府、産物

(二)、源爲朝の子某の王となりしこと

(三)、臺灣の地勢氣候風土、都府、産物

(四)、文明の度及び歴史事項

形式　冬ズラ　泡盛　バシコー布　叔父　ミツギチケンズ　華族　西海道　沖繩　首里　那覇　屬島　土人　熱帶　ショーノー　臺北　臺南　總督府　基隆　琉と流列と倒　諸と諸、乏と之との比較

應用　(一)、甘藷ハ琉球ニ多ク出來マス此地ハ水乏シクテ米ガ出來マセヌカラ島ノ人ハ大テイ平常ノ食ベ物トシテ居リマス

(二)、臺灣ハ明治二十七年以來我ガ國ノ領地トナリタル大島ニシテ土人ハ未ダ開ケザル無智ノ民多シ臺北ハ其主府ニシテ一般ニ茶、ショーノー、石炭ガ多ク出マス

教授注意　(一)、我ガ國勢の膨脹的なることを充分會得せしむること

既往關係　國語讀本卷五第一、九課卷六第二十三課

將來關係　仝卷八第二、四課

教材　我が國の神々　仝第二十三課

豫定時數　六時間　第四週

準備　伊勢大廟湊川神社靖國神社等ノ繪畫

教授要項　内容

(一)、皇室の御先祖ハ皆神と祭れること

(二)、國家の爲め功勞ありしものも神と祭れること

(三)、神を禮拜するハ其人の生前に仕ふると同じ心得にて其德を仰ぎ奉ること及び重な

る神々

形式　あふがれ　方々の　おはします　あやかりたし　伊勢の宇治の内宮　まつりまゐらす　功勞　出雲大社　熱田神宮　北野神社　豐國神社　東照宮　北白河宮　靖國神社　所行

應用

夥と移　祖と但との比較

（一）、東京九段坂の靖國神社は國の爲めに手柄をして死せし人々を祭らせ給へる所なり

（二）、太郎さん次郎さん三郎さんと明日天神樣へまゐるはずに候ゆゑあなたも一しよに御出でなされてはいかゞやおすゝめ申上げ候

（三）、來る何日は祖母三年の法事致し度候間皆々樣御連なひ御出で下され度候

教授注意

敬神の念を喚起し先祖に禮拜すべきを養ふべし

既往關係

（一）、國語讀本卷三第二十四課卷六第二十三課

（二）、修身教本卷三第二、三、四課

教材

十月

國史の大要（上）卷八第一課

豫定時數

七時間　第五週第六週

準備

神武天皇、神功皇后、天智天皇の御肖像、中臣鎌足肖像歷史畫、奈良時代の美術品摸型

教授要項

內容

（一）、神武天皇御即位より崇神帝の勸農景行仲哀天皇の東夷及ひ熊襲征討のこと

（二）、文學及ひ佛法の傳來せしこと

（三）、元明天皇の朝奈良遷都文學美術の旺盛

形式　帝國　萬世一系　皇統連綿　崇神　政事　景行　親征　かくれたまふ　神功皇后　應神天皇　王仁　曆法　欽明　佛法傳來　大臣　蘇我　物部　けんいをふるふ　入鹿　中ノ大兄皇子　藤原鎌足　天智天皇　進みき　元明天皇　文學美術

應用

政と改　榮と勞との比較　進みきと進みたりとの區別

（一）、吾々ガ平生用フル文字ハ第十五代應神天皇ノ時朝鮮ノ王仁ト云フ學者來リテ傳ヘタルナリ

（二）、我が國へ始めて佛法が傳來したるは第何代何帝の時に候か又之れを信ぜし人しりぞけし人の名もお知らせ下され度候

教授注意

我が國体を知らしめ歷代天皇の盛德宏業臣民の忠愛開進の有樣を知らしむること肝要

なり

已往關係　國語讀本卷六第二課卷七第一、二十三課

將來關係　本卷第十課

教材　門司より鹿兒島まで　全第二課

豫定時數　四時間　第六週

準備　西海道地圖及び各地產物標本

教授要項　內容

(一)、門司より博多熊本長崎を經て薩摩鹿兒島に至る

(二)、各地に付き地理的智識

形式　博多　蒙古　古跡　筑後の久留米　肥後の熊本　加藤清正　西南戰爭　肥前の長崎　開港場　內外商船　高島炭坑　出帆　櫻島の噴火山　薩摩の鹿兒島

型と習との比較

應用　(一)、私ノ家ヨリ學校ニマサルニハ家ノ門ヲ西ニ向ヒテ二郎君宅ノ前ヲ通リ小川ノ橋ヲ渡リテ村(町)役場ノワキヲスギテマツスグニ行ケバ學校ノ門ノ前ニ來ルナリ

教授注意　(二)、承はり申しますればあなた樣には明日御出立にて東京へお出なさるとの事なにぞ御たつしやで早くおかへりなされ度候

已往關係　國語讀本卷七第十九課

教材　鯨　全第三課

豫定時數　五時間　第六週第七週

準備　鯨の摸型、繪畫、鯨獵の圖、鯨鬚

教授要項　內容

(一)、捕鯨の實況により其爽快なる樣を想像せしめて海事思養を養ふこと

(二)、鯨ノ智識

(三)、鯨の子を思ふ情の厚きこと

形式　こぎ寄せ　ひし〳〵　漁夫　もり　もがけば　深手　あたり　見る〳〵　たへかねて　七てん八とー　もり　しとめんと　さしもの鯨　かくばかり　あたり　情

型と習との比較　追と近　捕と浦　抱と砲　情と淸との比較　るゝとらるゝとの區別

應用

(一)、鯨は海に住む大なる獸にして情深きものと見へめ鯨が子を育つる時には子鯨を抱き頭をならべて泳ぎまはるを子鯨若し捕へらるゝ時は親鯨かなしみて其あたりを去らずと云ふ

(二)、先日拜見いたしたる動物畫はどこにてお買ひなされ候や又代價もお知らせ下され度候

教授注意

(一)、親子夫婦の情愛の事など兒童相應の問答をなし愛情を養ひ慈悲心を長せしむべし

既往關係

國語讀本卷五第二十二課、卷六第十三課、卷七二十課、本卷第二課

教材

鹿兒島より神戸まで　仝第四課

豫定時數

六時間　第七週第八週

準備

日本地圖、嚴島の風景畫及ビ各地の製作品

教授要項

內容

(一)、鹿兒島より四國に立ちより瀨戸內海を東行し神戸に至ること

(二)、其間の地理の概要を授け風土の美により地理興味を起さしむること

形式　外海へと　大隅　一周　日向　速吸海峽　豐後　豐前　換へて　伊豫道後

應用

松山市　瀨戶內海　安藝廣島　吳　嚴島　備後の尾ノ道　疊表　備前岡山　播摩灘　淡路島　阿波　明石　舞子　須磨　周遊の路程

別と引　周と固と圓　灘と難　狹と峽との比較

(一)、安藝の嚴島、陸前の松島、丹後の天ノ橋立はいづれもおとらぬ良き景色の所でありますゆゑ、昔から日本三景と云ふて人々がほめて居ります

(二)、須磨舞子もよほど景色のよき所にして源義經が平家を攻めたる一の谷も此近傍なり

(三)、此の久留米がすりは父のみやげにもらひ候が母病の爲め仕立ができませんからどうぞ一二日の內に御仕立て下され度候

(一)、瀨戶內海製鹽業の盛なる事併せ教授すへし

國語讀本卷七第十三、十九課本卷第二課

教材

野中良繼　仝第五課

豫定時數

四時間　第八週第九週

準備

日本地圖

教授要項

內容

應用	(一)、野中兼山の奇行により海産の智識を與へ永遠を計る思慮を養ふこと (二)、歌詞によりて解し得らるゝだけ韻文の美を味はゝしむ 形式　土佐の城主　家臣　云ひこしぬ　遠州灘　熊野浦　とく　驚く見やり　末代 子たち　賞くゝめれ
教授注意	賞と當孫と係送と迎との比較　述べけりと述べにけりとの區別
既往關係	(一)、野中兼山江戸よりのみやげにはまぐりを持ちかゑらんと手紙にて國元へ云ひこし置きたくさん船に積みてかゑりたるが人々には之をあたへずして海にしづめこれは子々孫々までのみげにせんと云はれたり
將來關係	(一)、勅語「公益ヲ廣メ」の主旨を体し殖産興業上一般社會を利し後世を益する事ともを案出せしめ實行せんとする精神を鼓舞すべし
教材	國語讀本卷五第二十四課 本卷第七課

十一月

山林の功用　卷八第六課

豫定時數	四時間　第九週
教授要項	内容
應用	(一)、山林の効用 (二)、殖産保護の必要なること (三)、地理、理科に關する興味を起し實業を貴む念を長せしむること 形式　無カラン　木立シゲキ　ウルホシ　一テキノ水　農作 財と貯留と資との比較 (一)、雨ガフリツヾク時ハ大水ノ出ヅルコトアリ大水ハ田畑ヲアラシ家屋ヲ流ス誠ニ怒ロシキモノナリ之ヲフセグニハ山ニタクサン木ヲ植エテ水ヲ一度ニ出サヌヤウニスル外ハアリマセヌ (二)、このたび山畑へ樹木植へ付けたさに付き杉苗三千本ほど買入れのお世話願ひ上げ候
教授注意	(一)、前課兼山の公益と對照し林業の有益なる事を知らしむべし
已往關係	國語讀本卷七第十八課
將來關係	次第七課

教材　(一)、村のてほん　全第七課

豫定時數　七時間　第十週第十一週

準備　山桐ノ標本

教授要項　内容

(一)、片平某が實業に熱心し公益を進め一村を感化したること

(二)、公共心と實業心とを養ふこと

(三)、義勇奉公或は國家に盡す道に種々あること

形式　山桐　からく　敗路　うゑにせまりぬ　ばいよー　さるほどに　其のみいり

なんなん　新開地　本望　製艦費けんのー　當然　おし問答　けりとぞ

販と敗と飯　日と曰　貧と資と貿　勤と勤との比較　害あらんと害あるとの區別

教授注意　應用　(一)、江尻在ニ松山村ト云フ貧村カアリマシタ漸ク山桐ノ油ヲシボリテ生計ヲ立テ居タリシガ石油ヲ用フル事多クナリ其販路ヲ失ヒタル爲メ全村ウエニセマリマシタガ片平某ノ桑ヤ茶ヲ植エル手本ヲ示サレタカラ皆々セイダシテトードー村ガ富ミマシタ

(二)、先日御話の橋かけかゑ貴の寄附の儀は承知致し候何時にても出金いたすべく候

(一)、勅語「公益ヲ廣ム」の意を体せしめ公共心を養成することに注意すべし

既往關係　(一)、國語讀本第五六課　全卷三第二十四課

將來關係　(二)、修身教本卷二第十九、二十課

(一)、次課茶　本卷第十五課

教材　輸出入品　全第八課

豫定時數　五時間　第十一週

準備　陶磁器絲物標本、其他藥、製作品

教授要項　内容

(一)、我が國輸出入品の事

(二)、貿易經濟の觀念

(三)、國の貧富と强弱との關係

(四)、殖産興業の興味を喚起し愛國心を助長すること

形式　生糸　輸出　産業　高、おしなべて　振はざる　こひねがふ

輸と愉　補と捕　衰と哀　能と熊との比較

應用　(一)、生糸は蠶のまゆよりとりたるものにして我が國の輸出品の一でありまず生糸で織

教授注意　たものを絹と云ふてつやがわつてあたひも高くあります
既往關係　(二)、私方此の度番茶少々買求め度く候が此頃のねだんはどの位いたし候か御尋ね申上候
將來關係　(一)、産業心を興起すべし
　國語讀本卷五第六、十七課、卷七第十七課
　本卷第十二、二十二課

教材　世界萬國(上)　仝第九課
豫定時數　六時間　第十二週
準備　地球儀、萬國地圖、各地の寫眞又繪畫
教授要項　內容
(一)、世界地理ノ大要
(二)、世間に對する大体の觀念
(三)、自國の位置を知らしめ國民的の思想を養成すること
(四)、五大州の位置及び有名なる國名都會
形式　五大州　亞細亞　亞弗利加　歐羅巴　亞米利加　オシヤニヤ　太平洋　東洋　印度

應用　サイビリヤ　ペルシヤ　小亞細亞　西洋　異人　和蘭　葡萄牙　土耳其　露西亞
　半島　希臘　伊太利　西班牙　獨乙　オーストリヤ　佛蘭西　共和國　パーリ
　海上王　うたはるゝ　英吉利　所領地　ならびなし　デンマルク　スヰデン
　ノルウエー　スヰツル　ベルジヤム　開化　地中海　埃及　サハラ

教授注意　(一)、英吉利ハ我が日本ト同ジク島國デアリマスガ其所領地ノ廣キコトハ世界ニ比類ナク又色々ノ工業ガ盛デアリマス
　(一)、我が國と關係深き國は特に注意を興ふるを要す
　(二)、日英同盟の要点を知らしむべし
　國語讀本卷五第九課

已往關係　本卷第二十一、二十三課

將來關係　十二月

教材　國史の大要(中)　卷八第十課

豫定時數　五時間　第十三週

準備　日本地圖、歷代天皇の御肖像、平安奠都に於ける繪畫、宮公、清盛、賴朝、の肖像其他圖書

教授要項　內容

應用	(一)、平安覺都ヨリ鎌倉時代ニ至ル迄歷代皇室ノ尊嚴 (二)、臣民ノ忠良、國體ノ善美 形式　桓武、清和　藤原良房　攝政　宇多　醍醐　後三條、武人　平清盛　源頼朝　義經　幕府
教授注意	(一)、京都ハ桓武天皇ノ都ヲ奈良ヨリ遷シ給ヒテ明治ノ始メ今上天皇ノ東京ヘ遷シ給ヒシ迄ノ都デアリマシタ (二)、此の繪は平重盛が父清盛の我がまゝをいさめて居るのであります重盛は君に忠、親に孝なる人でわります
既往關係	今迄教へたる傳記的記載に反シ連續せる歷史的記載の豫備として教授すること (一)、國語讀本卷四第六課卷五第十六課卷八第四課 (二)、修身教本卷三第一課
將來關係	本卷第十九課
教材	貯蓄　仝第十一課
豫定時數	五時間　第十三週第十四週

準備	郵便銀行の貯金通帳、豫入願書、拂戻願書等
教授要項	內容 (一)、勤儉貯蓄の必要及ビ奬勵 形式　諺　相應　資本　天災　さすれば　銀行　利子 塵と應　疾と疲との比較　有らばト有れはトノ區別 (一)、諺に「塵も積もれば山となる」と云ふ事ありこれは一厘一錢の少なきも必ず粗末にすべからず無用の費をはぶき餘り有らば貯へ置くべしと云ふ事なり (二)、承はり候はゝお村には大そー孝行であはれな子供がありまさうですかこゝに私が平生少しづゝ貯へた錢が五十錢ありますからどうぞあなたよりお手渡しなし下され度候
應用	(一)、本卷第七課 (二)、修身教本卷三第二十一課、仝卷四第十三課
既往關係	會社及び銀行　仝第十二課
教材	六時間　第十五週
豫定時數	

準備　銀行通帳、約束手形、拂戻請求書、會社株券

教授要項　内容

(一)、會社銀行の何たるを知らしむ

(二)、貯蓄心を養ひ資本流通の利益を感得せしむ

形式　内外ナラヂニハ　到底　資金　分配　メイ〳〵、仕組　社　償　ユヅ1　若干

日本銀行　正金銀行

償と賞との比較

(一)、貯ナキ時ハ大風大水等ノ災難ニ遇ヒタルトキ又ハ病氣ナドニカヽリタル時ニ難儀スルモノナリ故ニ平常儉約シテ金錢ヲ貯ヘ置クベシ

(二)、貯金規則を問ひ合する文

(一)、會社組織の必要なることを知らしむべし

國語讀本卷五第二十課、本卷前課

一月

教材　鐵の物語(上)　卷八第十三課（練習文）

豫定時數　五時間　第一週

準備　鐵鑛、鐵捧、及ビ其他ノ鐵器

教授要項　内容

(一)、本課は有情物に見立て其經歷談によりて鐵の性質を知らしめ兼ねて觀察構想等の諸力を養ふ

形式　鑛山　製鐵所　生鐵　砂鐵　鍛鐵

應用　(一)、鐵瓶

(二)、ブリキ

(三)、油が切れたか時計が止つてならぬから至急お直し下され度御頼み申上げ候

既往關係　國語讀本卷六第十五課